令和４年度　研究集録

大輪

第３１集

研究主題

意欲的に自分の役割に取り組む力を育てる授業づくり

～めあてにつながる振り返りに焦点を当てて～

（１年次／２年計画）

秋田県立大曲支援学校

創立 30 周年

は　じ　め　に

今年度、本校は創立３０周年を迎えました。これを契機に、本校の特色である「『地域が教室』を基盤とした地域の資源や特色を生かした教育活動」をさらに充実させるために、地域への感謝の気持ちを育む学習活動を展開してきました。コロナ禍の状況ではありますが、全校児童生徒による「記念大クリーンアップ」や手作りの記念品製作等に取り組み、一定の成果をあげることができました。

さて、今年度から２年計画で「意欲的に自分の役割に取り組む力を育てる授業づくり ～めあてにつながる振り返りに焦点を当てて～ 」を主題とする研究をスタートさせました。この研究主題を設定した理由は、本校のキャリア教育の目標である「自分の力を発揮し、役割を果たしながら、自分らしい生活を送ろうとする意欲や社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度を育てる」ことにせまるために、「自分の役割に取り組む力」を育成する必要があると考えたからです。一年目の今年度は、各学部において、児童生徒の「自分の役割」とは何か、児童生徒が意欲的に「自分の役割」に取り組むためにはどのような工夫が必要かということを明らかにすることにしました。その上で、全校授業研究会、学部授業研究会、「日々の授業改善協議」等を通して、各教科を合わせた指導を中心に「振り返り」をめあてにつなげる授業づくりを展開してきました。小学部では、遊びの指導と生活単元学習、中学部、高等部では、作業学習を中心に、見通しをもたせたり意欲を高めたりしながら、児童生徒が自分から進んで活動に取り組むためにはどのような支援があればよいか、本時の振り返りから見えてきた気付きや課題を、次時のめあてにつなげるためにどのような工夫が必要か、等について検討を重ねながら授業実践に取り組んできました。本集録は、今年度の取組についてまとめたものです。本集録を御高覧いただきました皆様には、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本研究推進にあたり、秋田大学教育文化学部 前原和明 准教授、秋田県教育庁特別支援教育課 菊地 真理 主任指導主事、藤井 奈緒子 指導主事よりたくさんの御指導、御助言を賜りました。誠にありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和５年３月　　校長　鎌 田　誠

目　　次

はじめに　　校　長　鎌田　誠

〇全校の研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

〇小学部の研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

〇中学部の研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

〇高等部の研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

〇寄宿舎の研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

〇研究のあゆみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47

おわりに　　教　頭　大沢　貴子

研究同人

全校の研究

令和４年度　全校の研究

研究主題 意欲的に自分の役割に取り組む力を育てる授業づくり ～めあてにつながる振り返りに焦点を当てて～（１年次／２年計画）

１　主題設定の理由

（１）前年度の研究から

令和３年度は、「見える化で『分かった』『できた』『もっと知りたい』が高まる授業づくり」を研究テーマとして、学習活動や教材の「見える化」に焦点を当て、国語、算数・数学で検証を行った。学習活動における「見える化」の目的と意図を整理したことで、授業のねらいや学習活動の見直しが図られ、ＩＣＴ活用を含む教材の「見える化」や手立ての工夫につながり、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりの改善が図られた。一方で、授業の基本をチェックする「授業の基本チェック」の中でも、「児童生徒が本時のめあてを達成した実感をもっているかの評価基準がある」の項目が低評価であることが明らかとなった。改善策として「何が身に付いたか」という視点で、学習評価を捉えていく必要性が出された。

（２）学校経営案から

今年度本校では、「学習指導要領に対応した授業づくりの推進」が学校経営の重点事項の一つとして挙げられた。各教科等を合わせた指導を中核とし、キャリア教育の視点から各学部段階における「自分の役割」を捉え、学部間のつながりや将来へのつながりを重視した教育活動を行う。また、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズを捉え、授業の「振り返り」の意識化を通して、意欲的に取り組む力を育む授業づくりを目指す。

（３）社会的要請から

「主体的・ 対話的で深い学び」を実現することの意義について、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか。 子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。」（中央教育審議会、2016）としている。

以上のように、本校では、自分の役割に取り組む力を育てるために振り返りに焦点を当て、授業改善を図っていきたいと考えた。

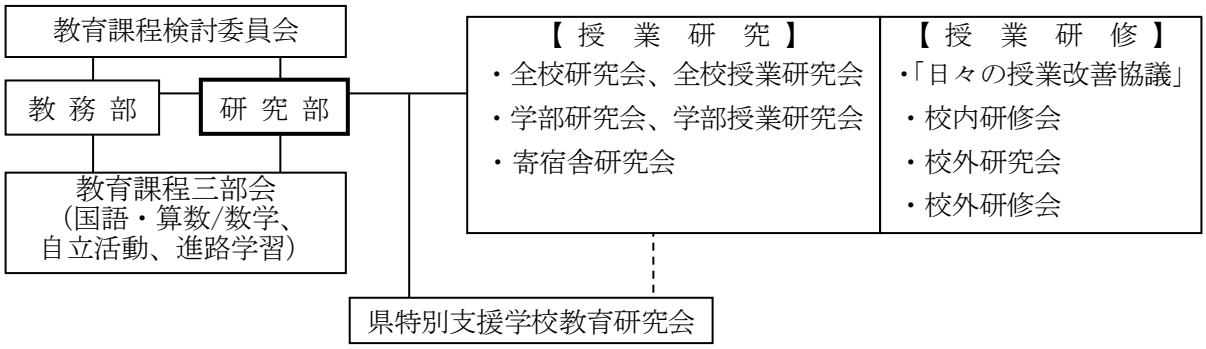
２　研究主題の捉え

今年度は各教科等を合わせた指導を中核とし、自分の役割に取り組む力を育てるために振り返りをし、それをめあてにつなげる授業づくりを全校で行う。各学部段階において、一人一人がしっかりと「何が身に付いたか」実感をもつための振り返りの手立てや環境を設定し、学習内容の確認や自己変容の自覚などの学習活動を積み重ねることにより、学びの定着を目指したい。

３　研究仮説

児童生徒が自分の役割を自覚し、思考や試行の振り返りを積み重ねることで、次時の活動に見通しをもち、自ら取り組む力が育つであろう。

４　研究組織



教育課程検討委員会：校長、教頭、教育専門監、学部主事、学部副主事、寄宿舎主任、分掌主任、ＩＣＴ活用推進リーダー
授業実践を通した教育課程の評価、検討、改善事項の整理、立案等を行う。

教育課程三部会：国語、算数・数学部会～学部主事・副主事、研究主任・副主任、各学部２名
自立活動部会～学部主事・副主事、地域支援主任・副主任、各学部２名
進路学習部会～学部主事・副主事、進路指導主事・副主事、各学部２名
各学部の教育資料の見直し等の課題を吸い上げ、授業改善に生かすべき事項について検討する。

県特別支援学校教育研究会：県内特別支援学校の教職員「全員」が会員
特別支援学校の課題について、特別支援学校の充実と発展を目指す。

５　研究内容と方法

今年度は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについて、めあてにつながる振り返りに焦点を当て、各教科等を合わせた指導の学習を２年計画の研究期間で検証を行う。主体的な学びを促す「めあて」「まとめ」「振り返り」の設定について、全校体制で研修する。これらの研修を生かし、教科別の指導や自立活動においては、育成を目指す資質・能力を明確にし、児童生徒の実態に即して目標や内容を設定する。

具体的な研究方法は表２の通りとする。

表２　研究の内容と方法

内　　容	方　　法
「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくり ○全校授業研究会（中学部）、学部授業研究会（小学部、高等部）：授業提示（研究対象：各教科等を合わせた指導）と授業協議及び改善授業の実施 ○「日々の授業改善協議」（以下、日々研）：一人一回の授業提示（研究対象：各教科等を合わせた指導の T1･T2 の授業）と協議の実施 ○教職員の共通理解促進、授業づくりに関する研修会：全校研究会・学部研究会・研修会の実施、研究集録・研究部報の発行	○自分の役割が自覚できるために ・各学部段階での「意欲的に自分の役割に取り組む児童生徒の姿」の設定 ・全教員での「意欲的に自分の役割に取り組む児童生徒の姿」の共有と日々の授業づくりへの反映 ○思考や試行の振り返りを積み重ね、次時への見通しと自ら取り組む力の育成のために ・教育計画に基づいた指導目標・内容の設定 ・単元構成検討会、学習指導案検討会の実施 ・児童生徒の視点での授業研究会の実施（児童生徒の姿を根拠にした付箋紙の記入） ・「授業デザインチェックリスト」の活用と「授業の基本チェック」の見直し（研究内容に対応する項目の追加） ・日々研を活用し授業力向上を目指した授業スキルアップ研修の実施
授業実践を通した教育課程の改善 ○教育課程検討委員会 ○教育課程三部会（国語・算数／数学、自立活動、進路学習）	・カリキュラム・マネジメントを四つの側面で捉えた教育活動の検討と改善（教科等横断的・資源活用・ＰＤＣＡ・個別の指導計画） ・自立活動の「流れ図」を生かした授業づくり ・教育課程三部会を活用した授業づくりの課題の吸い上げと改善策の検討

６　対象

小学部～１・２年：遊びの指導　　３～６年：生活単元学習

中学部～作業学習

高等部～作業学習

７　研究計画

実施時期	研究会等	実施内容（○授業づくり、□教育課程）
４月	全校研究会①	○□全教職員での研究主題、方向性の確認 ○□生活単元学習（学年ごと）の中心単元と他教科関連図の作成と、今年度研究について全教職員での共通理解
	学部研究会①	○□全校研究主題を基にした学部研究の方向性の確認 ○□目指す児童生徒像の具体化や研究対象とする指導形態（遊びの指導、生活単元学習、作業学習）と他教科との関わりを明らかにした年間指導計画の立案
５月	県特別支援学校教育研究会	○□県内特別支援学校のＩＣＴ利活用における課題の抽出と協議 ○□自校研究への反映
６月	学部研究会②	○□意欲的に自分の役割に取り組む児童生徒の姿の捉え
７月	研究部報１号発行	○　各学部における役割の捉えの共通理解
	日々研参観週間①	○　授業力向上に向けて日々の授業を提示、協議、改善

実施時期	研究会等	実施内容（○授業づくり、□教育課程）
７月	学部授業研究会①	○　高等部作業学習（木工班）の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	全校研究会②	○□自分の役割の捉えと「まとめ」「振り返り」の視点の確認及びゴールから考える授業づくりについて見直し、今後の授業展開へ反映
	教育課程三部会①	□国語科、算数・数学科、自立活動、進路指導における各学部の指導の実際と課題の整理
８月	研究部報２号発行	○　高等部授業研究会（作業学習：木工班）の振り返り
	教育課程検討委員会①	□１学期までの授業実践を通した教育課程の評価、検討
	学部研究会③	○　研究対象とする指導の形態（遊びの指導、生活単元学習、作業学習）における授業実践の振り返りと児童生徒の変容について
９月	単元構成検討会 学習指導案検討会 学部授業研究会② 授業提示：小学部	○　小学部２年「遊びの指導」の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	研究部報３号発行	○　小学部授業研究会（遊びの指導）の振り返り
10 月	単元構成検討会 学習指導案検討会 学部授業研究会③ 授業提示：小学部	○　小学部４年「生活単元学習」の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	研究部報４号発行	○　小学部授業研究会（生活単元学習）の振り返り
11 月	単元構成検討会 学習指導案検討会 全校授業研究会 授業提示：中学部	○　中学部作業学習（布加工班）の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	研究部報５号発行	○　中学部授業研究会（作業学習：布加工班）の振り返り
12 月	単元構成検討会 学習指導案検討会 学部授業研究会④ 授業提示：高等部	○　高等部作業学習（陶芸班）の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	教育課程検討委員会②	□２学期までの授業実践を通した教育課程の評価、検討
	日々研参観週間②	○　授業力向上に向けて日々の授業を提示、協議、改善
１月	全校研究会③	○□各教科等を合わせた指導の単元目標の評価規準の設定について見直し、今後の授業展開に反映
	授業スキルアップ研修	○　授業力向上に向けて、日々の授業の悩みに対する協議、改善
	学部研究会④	○□今年度の学部研究についての評価
	教育課程検討委員会③	□今年度の教育課程の評価、検討、次年度の計画 ○　「日々研」実施の成果・課題の共有
３月	全校研究会④	○□全教職員での今年度の研究成果と課題、次年度の方向性の共有
	学部研究会⑤	○　次年度の授業づくりや学部研究に向けた構想

８　研究の実際及び成果と課題

（１）　全体研究の取組

①　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

ア　「自分の役割」に取り組むための手立ての工夫

・「自分の役割に取り組む児童生徒の姿」の設定と共有

第１回全校研究会で「自分の役割」についての捉えや、キャリア発達の「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」(中央教育審議会、2011)という定義について確認した。本校のキャリア教育の視点から、「自分の役割に取り組む力」を育成していくためには、各学部の目指す「意欲的に自分の役割に取り組む姿」の捉えを明確にする必要性が挙げられた。全校研究会や学部研究会の機会を通して、キャリア発達を促すとは、「児童生徒の『思いの変化』や『内面の育ち』を重視し、『気付き』を促していくことや活動への意味付けをすること」という認識で共通理解を図った。

単元における児童生徒一人一人の「自分の役割」の捉えを明確にすることで、学習活動の展開を丁寧に組み立て、児童生徒の気付きを次のめあてにつなげていくＰＤＣＡサイクルが機能し、授業改善につながった。

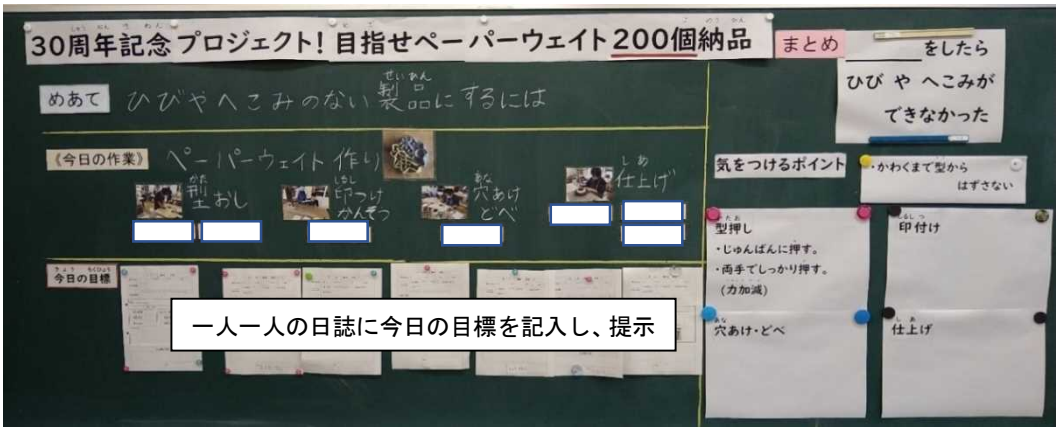


写真１　学習過程での気付きをめあてにつなげるための板書（中学部：作業学習「陶芸班」）

・日々の授業づくりへの反映

児童生徒が学習活動を振り返って、次の学びにつなげて主体的に学ぶことができるように、振り返りの指導のポイントや視点（沖縄教育委員会「問い」が生まれる授業サポートガイド、2022）を参考にしながら、振り返りの視点について整理した。学びの変容・過程、結果を振り返る視点だけでなく、教員が活用探求の視点をもつことで、他の教科への活用や次時につながることを確認した。

また、第２回全校研究会で、「ゴール、導入、展開で考える授業づくり」をテーマに、指導主事計画訪問の際に作成した各教科等を合わせた指導の学習指導案を基にワークショップを実施した。教員自身が授業をデザインし、授業の終末を充実させるにはどうしたらよいかという思考をもち、ゴールの明確化のイメージがもてるように実施した。児童生徒の思考の時間を確保するには、コンパクトな導入や学習内容の精選といったことに目を向け、継続して実践していく必要がある。

イ　思考や試行の振り返りを積み重ね、次時への見通しをもつ工夫

・単元構成検討会や学習指導案検討会の実施

各教科等を合わせた指導の授業づくりの中で、教員間の役割を含め単元における児

童生徒の「役割」の捉えが不可欠であり、年次研や授業研究会の提示授業に関して、単元構成と学習指導案の検討会を行った。授業者全員と教育専門監、当該の学部主事、年次研担当、研究部員及び研究主任を構成メンバーとし計画的に実施した。授業者だけでなく、複数の教員で授業をつくり上げる体制が構築されている。

各検討会では、年間指導計画、個別の指導計画等の教育資料に基づいた授業計画か、育成を目指す資質・能力に分けた単元の目標設定は適切か、学習活動に「自分の役割」を自覚し、取り組む場面が設定されているか、児童生徒の実態に応じた振り返りの方法はめあてにつながっているか、気付きを引き出すための手立てはどうあればよいかを確認した。

小学部２年の遊びの指導の検討会では、教員は共通理解の基に「めあて」という形での提示はしない、振り返りは児童が夢中になって遊んでいる時に即時評価をするなどの改善案が出された。中学部の作業学習の検討会では、次時への見通しをもって取り組むための手立てとして、製品の善し悪しを判断するための観点表の準備や一人で製作ができる教材の工夫などが挙げられ、多方面から具体的な方策が提案され、授業改善に生かされた。

ウ　自ら取り組む力の育成に向けた工夫

・児童生徒の姿を根拠とした授業研究会の実施

教員の見取る力の育成に向けて、ここ数年「子どもの視点に立った」授業研究会を実践し定着してきた。「自分の役割」に取り組むための手立てやめあてにつながる「振り返り」にするための手立ての有効性について、児童生徒の姿を根拠とした協議の中で活発な意見交換が行われた。

全校授業研究会の指導助言の中で、各教科等を合わせた指導における単元の目標に対する評価規準が話題となった。本校の単元の目標の評価規準は、学習指導案の指導計画の中に主なものを記載し、本時の目標に対しての評価の観点を示し、児童生徒の姿から評価している。単元の目標の評価規準の記載はないため、今後、学習指導案に盛り込んでいく必要がある。

また、小学部授業研究会の中で、各教科を合わせた指導のめあての提示、振り返り、まとめの方法は、児童生徒の発達段階や学習形態によって変化するものであり、本研究のゴールとして振り返りやまとめのバリエーションを増やしていくことではないかとの指導助言があった。１単位時間の授業だけでなく、単元や題材といったまとまりで捉えるなど、形や方法は一律ではない、という共通理解の基に今後の授業づくりに生かしたい。

②　授業実践を通した教育課程の改善について

・日々の授業実践と教育課程の改善のつなぎ

教育課程三部会（国語・算数／数学部会、自立活動部会、進路学習部会）の中では、日々の授業づくりの課題の吸い上げと改善策についての意見交換や、教育課程検討委員会への提案事項の検討等が確認できた。日々の指導づくりの課題解決の糸口として、授業スキルアップ研修や本校のつながりプランを活用した取組の見える化を実施した。自立活動部会では、自立活動の「流れ図」と個別の支援計画、個別の指導計画のつながりの確認ができた。三部会での取組は、各学部会を利用して周知しているが、他分掌と連携し、さらに教職員の共通理解・授業改善につなげたい。

③授業研修について

・授業スキルアップ研修の実施

アンケートを実施したところ、日頃から国語・算数／数学に対して難しさを感じている教員が多いことが分かり、特に課題だと感じている分野についてグループごとに日々研の録画授業を活用し協議した。「内発的な動機：子どもが授業にのめり込む」「子ども同士の学び合い：対話の促進」「活動の保障と学びの深まり：実態差のある集団の難しさ」といったテーマに分かれ、普段の悩みや工夫している点について共有した。授業についての改善点を話し合うのではなく、「明日から自身の授業に取り入れられる」という視点で話し合いを進めることができた。

・日々研の集計結果より

各教科等の合わせた指導（遊びの指導、生活単元学習、作業学習）を中心とし、授業を担当する教員（T1、T2）を対象に日々研として一人 1 回の授業提示（45 名 36 回）を行った。本校で使用している「授業の基本チェック～日ごろの実態把握・観察を大切に～」（15 項目）を活用し、授業前に項目に沿って確認した。今年度は研究主題に沿った内容や項目を追加し、研究とより関連をもたせて実践した。集計結果を基に見ていくと、研究主題に沿った項目「前時の『振り返り』から見えてきた気付きや課題を本時の『めあて』につなげている」が 66.7%となっている。学部ごとに見ていくと、小学部 28%、中学部 100%、高等部 88.9%となっている。小学部の遊びの指導や生活単元学習といった指導形態では、振り返りをめあてにつなげていくことの難しさが課題として見えてきた。

④　来年度に向けて

授業者の手立ての妥当性を児童生徒の姿の根拠とし見取り、振り返りをめあてにつなげていくＰＤＣＡサイクルに基づき、思考や試行の振り返りを意識した取組を実践した。児童生徒が学習過程を振り返る上で、ＩＣＴやポートフォリオの活用は自分の成長や課題への気付きに有効であった。また、自分が取り組むべき活動を繰り返すことで、見通しをもち自分の役割に取り組む姿が見られた。教員自身にとっても次（めあて）につながるような言葉掛けや発問、前時を想起させる導入の意識化につながった。

教職員に実施したアンケートの中で、「実践を通して、各学部で捉えた『自分の役割に取り組む姿』に近づいたと思うか」という設問に対し、「そう思う」「まあそう思う」の回答が 98.1%(回答者 53)と肯定的評価が見られた。その一方で、児童生徒が自分の役割に取り組む姿が見られたものの、自分の課題を自分事として捉え、自ら改善していくようになるには、認められる経験や自分の存在価値を実感することの積み重ねが必要との意見が挙げられた。

児童生徒が認められる経験や自分の存在価値を実感するためには、より的確な実態把握を行い、１単位時間の授業だけではなく単元のまとまりの中で、効果的なめあての提示やまとめ・振り返りについて考えることが大切である。また、これまでの既習事項を基に、単元構成をする上で単元目標や学習評価がどう児童生徒の変容に結び付けていくのか、根拠を示しながら授業づくりを進めていきたい。そのためには、教科の目標を意識した単元目標や単元目標の評価規準の設定等に計画的に取り組んでいきたい。

（２）　**今年度の各学部の研究経過**

・各学部の研究報告参照

〈参考文献〉

秋田県立大曲支援学校（2022．３）：研究収録「大輪第 30 集」（令和３年度の研究集録）
田村学(2022)：「ゴール→導入→展開」で考える単元づくり・授業づくり、小学館
全国特別支援学校知的障害教育校長会（2021）：知的障害教育における「学びをつなぐ」キャリアデザイン 、ジアース教育新社
沖縄教育委員会（2022）：「問い」が生まれる授業サポートガイド
中央教育審議会（2016．12．21）：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について　（答申）

小学部の研究

小学部の研究

１　小学部の目指す児童像

（１）楽しく体を動かし、健康に生活する児童
（２）自分の思いや考えを伝え、友達と仲良く活動する児童
（３）夢中になって活動したり、進んで役割に取り組んだりする児童

２　小学部の目指す意欲的に自分の役割に取り組む児童の姿

（１）考えたり、工夫したり、協力したりしながら活動を楽しむ児童
（２）いろいろな活動から、自分がやりたいことを自分で選び、活動に取り組む児童
（３）感謝されたり感謝したりする経験を積み重ね、少し難しいことに挑戦しようとする児童

３　研究の方法

授業づくりの視点	方　法
・単元（題材）で目指す姿の明確化	・具体的な児童の姿をシミュレーションしながらの単元構成検討会の実施
・児童の意欲の喚起や思考の継続に向けた「見える化」による工夫	・視覚教材等を用いた、前時の活動を想起させる導入の実施 ・次時の活動への意欲や思考の継続のための掲示の工夫
・思考や試行を引き出す人的及び物的環境の設定	・児童が考えたり工夫したりする余地を残した教材や発問等の工夫 ・共通の目的に向かって友達と協力して進める活動の設定 ・少し難しいことに挑戦し、やってできたという満足感を味わう活動の設定
・本時で味わった達成感や満足感等を次時の期待や意欲につなげる振り返り	・児童の取組等を価値付ける即時評価（言葉掛けや働き掛け）の工夫 ・児童の考えや取組等を全体で共有したり、情報交換したりする振り返りの設定

４　研究の計画

月	日	主な活動
4	27	学部研究会① ・小学部の目指す意欲的に自分の役割に取り組む姿の検討
5	26	臨時学部研究会 ・小学部の目指す意欲的に自分の役割に取り組む姿の明確化 ・授業づくりの視点と方法の検討
7	4	学部研究会② ・授業づくりの視点を踏まえた、各学年での単元構成検討の実施
8	31	学部研究会③ ・９／７事前授業のビデオ検証（振り返りの場面を中心に）

9	7	学部授業研究会①小学部２年「遊びの指導」 ・目指す児童の姿に向けた、思考と試行を引き出す手立てと振り返りについての検証 ・単元構成検討会７／25　・指導案検討会８／２　・事前授業８／31
10	12	学部研究会④ ・10／27 事前授業のビデオ検証（制作活動・振り返りの場面を中心に）
10	27	学部授業研究会②小学部４年「生活単元学習」 ・目指す児童の姿に向けた、思考と試行を引き出す手立てと振り返りについての検証 ・単元構成検討会７／27　・指導案検討会 10／４　・事前授業 10／12
1	26	学部研究会⑤ ・目指す児童の姿に向けた、思考と試行を引き出す手立てと振り返りによる児童の変容について
3	13	学部研究会⑥ ・研究のまとめ ・次年度の中心単元（題材）で目指す児童の姿

５　研究の実際

（１）学部研究会の取組

①　小学部の目指す意欲的に自分の役割に取り組む姿の明確化

学部研究会①では、研究主題と仮説を基に「自分の役割に取り組む児童の姿」とはどんな姿なのかを意見交換した。その際、遊びの指導や生活単元学習における「自分の役割に取り組む姿」をイメージしやすいように、幼稚部教育要領解説から参考となる部分（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」自立心）を抜粋した資料（資料１）を参考にして１、２年部は遊びの指導、３～６年部は生活単元学習における「自分の役割に取り組む姿」を出し合った（資料２）。意見を基に研究部で素案を作成し、臨時学部研究会で「自分の役割」をどう捉え、どんな児童の姿を目指すのかを検討した。「小学部の目指す意欲的に自分の役割に取り組む児童の姿」が明確になり、研究の方向性が共有された。

＊参考資料の一部紹介
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
自立心：身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
幼児期に育まれた自立心は、小学校生活において
○自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む姿
○生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む姿
○自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、先生や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする姿　など、日々の生活が楽しく充実することにつながっていく。
教諭等は
友達から認められることで更に自信をもつようになることを踏まえ、幼児一人一人のよさが友達に伝わるように認めたり、学級全体の中で認め合える機会をつくったりするなどの工夫が重要になる。

資料１

＊各学年部より出された意見を一部紹介
「自分の役割に取り組む姿」とはどんな姿か
（遊びの指導）
・自己主張をして存在を認めてもらう　・自分で遊び方を考えて楽しむ　・友達を誘う
・友達との物の貸し借りをする　・友達の様子を見ておもしろそうと思う　・遊びこむ
・前時の遊びを思い出して遊ぶ　・設定された遊びの中で好きなことを見付ける
（生活単元学習）
・手順やゴールが分かり集中して活動に取り組む
・言葉やジェスチャー、発声等で自分の気持ちを表出する
・自分の活動が終わった、楽しい、他にももっとやりたいという気持ちをもつ
・感謝する経験や感謝される経験を積み重ねて自信をもち、いろいろなことにチャレンジしようという気持ちをもつ

資料２

②　目指す児童の姿に向けた授業づくりの検証

A 授業づくりの視点と方法の検討

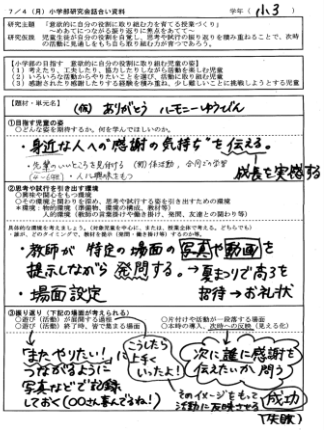
研究仮説の「思考と試行の振り返りを積み重ねる」に注目し、考えたり試したりする姿を引き出すための手立て（思考と試行）と次時につながる振り返り方（振り返り）について、どんな手立てや内容が考えられるかを検討した（資料３）。意見を基に研究部で授業づくりの視点について素案を作成し、臨時学部研究会で、各視点に対してどんな方法で授業づくりに取り組んでいくかを確認した。授業づくりの視点と方法が明確になり、授業づくりの取り組み方について職員の意識統一が図られた。

＊各学年部より出された意見を一部紹介
○思考や試行　※考えたり試したりする姿を引き出すための手立て
（遊びの指導）
・興味のもてる遊び　・魅力的な素材　・前向きな言葉掛け（即時評価）
・少し難しいけれどやってみたい、楽しいと思える遊びの設定
・子どもが工夫する余地を残した教材の提示（そのままの素材や、つくりかけの道具の提示等）
（生活単元学習）
・発問の工夫（「困ったな。どうすればいいのかな。」等）
・みんなで協力することで完成する教材の工夫　・時間内に結果が分かる少し難しい課題
・友達の姿の取り上げ方（「○○さん、□□してるね。」等）
・こうすればうまくいった等、考えたり工夫したりできる活動内容の設定
○振り返り　※次時につながる振り返り方
（遊びの指導）
・写真での紹介　・ひらめきポイントカードの活用　・活動中に児童の遊び方を紹介（即時評価）
・次時に、今の遊びを広げて展開できるようなまとめ方の工夫
・次時の導入での取り上げ方工夫　・遊びの継続を図るため遊びの様子を写真で壁面に貼る
（生活単元学習）
・完成したものの提示等による意欲や試行の継続　・個々のがんばりを取り上げて認め合う場の設定
・自信ややる気を引き出すような言葉掛け（「ありがとう。」「助かった。」等）
・気付きが得られる映像による振り返り

資料３

B 授業づくりの視点を踏まえた、各学年での単元構成検討

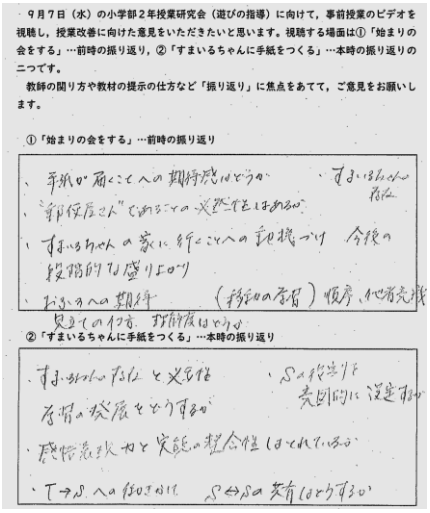
学部研究会②では、今後予定している遊びの指導や生活単元学習の授業について、目指す児童の姿や思考や試行を引き出す手立て、振り返り方を具体的に考えた。その際、授業づくりの視点に沿って区切られた協議シート（資料４）を使用したり、活動終了時の振り返りや即時評価、中間評価等について幼稚部教育要領解説等から参考となる部分を抜粋した資料を参考にしたりした。各学年部で「自分の役割に取り組む姿」を目指した授業についての話合いがされ、思考や試行を引き出す環境、振り返り方について具体案が多数出された。



資料４　協議シート

C 授業研究会に向けたビデオでの検証

学部研究会③④では、学部授業研究会に向けた事前授業をビデオで視聴し、参観シート（資料５）に一人一人が自身の意見を記入した。視聴場面については、思考や試行を引き出す環境や振り返り（前時を想起する導入部分も含む）に関した場面に限定し、その詳細について授業者と話し合い決定した。教員一人一人から提示場面ごとの成果や課題、改善案が出され、その意見を研究部で資料にまとめ、全教員で共有した。各教員から上げられた成果や課題は共通の意見が多く、課題に対する改善案やアイディアが多数出された。授業者はその意見を基に授業の見直しを図った。


9月7日（水）の小学部２年授業研究会（遊びの指導）に向けて，事前授業のビデオを視聴し，授業改善に向けた意見をいただきたいと思います。視聴する場面は①「始まりの会をする」…前時の振り返り，②「すまいるちゃんに手紙をつくる」…本時の振り返りの二つです。

教師の関り方や教材の提示の仕方など「振り返り」に焦点をあてて，ご意見をお願いします。

①「始まりの会をする」…前時の振り返り

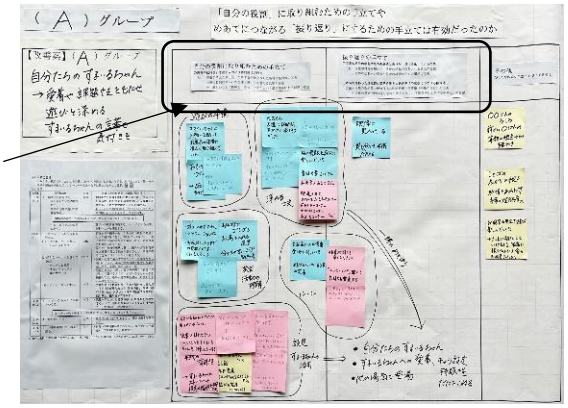
②「すまいるちゃんに手紙をつくる」…本時の振り返り

資料５　参観シート

③　授業づくりの視点に沿った、授業の研究協議の工夫

学部授業研究会①②では、参観の視点（「自分の役割」に取り組むための手立てやめあてにつながる「振り返り」にするための手立ては有効だったか）を検証するにあたり、協議の視点を授業づくりの視点に沿うものにし、授業づくりの視点と方法を示した資料を提示するとともに、その視点と方法を協議用模造紙（資料６）にも明記した。思考や試行については「思考のつながり」「じっくり遊びこめる環境」「遊びに変化をつける教材の工夫」等、振り返りについては「児童主導の振り返り」「製作物の提示による振り返り」等授業づくりの視点に沿った意見が多数出された。

授業づくりの視点	方　法
・単元（題材）で目指す姿の明確化	・具体的な児童の姿をシミュレーションしながらの単元構成検討会の実施
・児童の意欲の喚起や思考の継続に向けた「見える化」による工夫 （※２）	・視覚教材等を用いた、前時の活動を想起させる導入の実施 ・次時の活動への意欲や思考の継続のための掲示の工夫
・思考や試行を引き出す人的及び物的環境の設定 （※１）	・児童が考えたり工夫したりする余地を残した教材や発問等の工夫 ・共通の目的に向かって友達と協力して進める活動の設定 ・少し難しいことに挑戦し、やってできたという満足感を味わう活動の設定
・本時で味わった達成感や満足感等を次時の期待や意欲につなげる振り返り （※２）	・児童の取組等を価値付ける即時評価（言葉掛けや働き掛け）の工夫 ・児童の考えや取組等を全体で共有したり、情報交換したりする振り返りの設定



資料６　授業づくりの視点と方法・協議用模造紙

④　授業づくりの視点を踏まえた授業実践での成果と改善案の共有

授業づくりの視点に沿って、有効だった内容や手立てと児童の変容を記入するシートを活用し、冬季休業中、各学年部で授業実践の成果と課題を話し合った。学部研究会⑤では各学年部で出された授業実践の成果と課題をまとめたアンケートシートを活用し、各学年部で有効だった内容や手立てを紹介し合って共有した。また、話し合いで上げられた課題の解決策等も多数出された。

（２）授業実践①【小学部２年合同　遊びの指導】

単元名　「すまいるちゃんのお家で遊ぼう～段ボール・紙遊び～」（総時数 20 時間）	
単元の目標 ・段ボールや紙に触れ、感触や形の違い、操作する楽しさを感じて遊ぶ。【知】 ・キャラクターとの遊びを通して、新しい遊び方を見付け、自分の遊びに取り入れようとする。【知】 ・好きな遊びやコーナーを見付け、やりたいことを選んだり伝えたりして遊ぶ。【思】 ・キャラクターとの関わりや操作を通して、友達や教師に興味をもち、自分から関わろうとしたり、場や遊具を一緒に使って遊ぼうとしたりする。【学】	
児童は、スライムや泥、水、絵の具を素材とした感触遊びや乗り物遊びなどの学習を通して、設定された素材やコーナーの中から好きな遊びを見付ける姿や、時間いっぱい夢中で遊ぶ姿が増えてきた。本単元は段ボールと紙を素材として扱う。家という身近な場所をテーマに設定することでコーナーの遊び方のイメージがもちやすい。児童が周りの様子に興味をもって見る、まねる、場所や遊具を共有するなどして、友達と関わる楽しさや新しい遊び方に気付いて遊ぶ姿につなげたい。	
「自分の役割」に取り組むための手立て及びめあてにつながる「振り返り」の手立て	**児童の変容**
◎周りへの興味関心を広げるためのキャラクター（すまいるちゃん）の活用 ・すまいるちゃん人形をきっかけとして、お風呂の準備、身体を洗う、お風呂を上がる、片付けるなどの活動を展開した。	・それぞれで遊んでいても、すまいるちゃんの掛け声で周りに集まり、次の活動に向かった。 ・全員で輪になって背中を洗い合う、友達の髪をドライヤーで乾かす、飲み物を配るなど、友達と関わる姿が増えた。
◎何をして遊ぶのかを分かりやすくするための環境設定 ・コーナーをお風呂場一つに絞り、部屋全体をお風呂場に見立てた。お風呂の準備、お湯を入れる、身体を洗う、シャワー、ドライヤーなど、お風呂に関連する遊びをストーリーに沿った流れで設定した。 ・素材を紙に限定した。お湯には新聞紙、入浴剤にはお花紙など用途で異なる感触の紙を使ったり、ちぎり方を変えたりして変化を付けた。	・お湯が沸くと自分からシャンプーを準備する、お風呂上がりには自分からドライヤーや飲み物を持ってくるなど、次の活動を楽しみに進んで行動するようになった。 ・お風呂いっぱいの新聞紙に潜る、「入浴剤」と言って牛乳パックいっぱいにお花紙をちぎる、シャワーからひらひらと紙が舞う様子を見つめるなど、自分の好きな遊び方を見付けて紙の感触を楽しんだ。
◎どのように遊びが展開されたのかが見て分かる振り返り ・生活単元学習と関連し、すまいるちゃんへの手紙を作成することを振り返りの活動とした。本時の写真や動画を見ながら、遊びのイラストを手紙に貼ることで、どのように遊びが広がったのかを振り返った。併せて、一人ずつ顔写真（いい湯だねシール）を貼り、個々の振り返りを行った。作成した手紙は廊下に掲示し、積み重ねが見えるようにした。 ・写真や動画は、前時までの活動を思い出すために次時の導入でも活用した。	・シャンプー、シャワー、お湯につかる、お風呂上がりの乾杯などの遊びを表したイラストの中から、楽しかった遊びを選んで「いい湯だねシール」を貼った。「どうして楽しかったのですか」という問いに、「ごくごく」と単語を話したり、指さしや動作で表現したりした。 ・廊下に掲示している手紙を休み時間に見て指さしたり、「すまいるちゃん」とつぶやいたりした。 ・写真や動画を見ながら「ゴシゴシ」「シャワー」と言ったり、動作をしたりする姿が増えた。

９月７日（水）　学部授業研究会

本時の目標（本時７・８／20）

・かみかみお風呂でやりたいことや使いたいものを選び、にぎる、ちぎる、掛けるなどして段ボールや紙の感触を楽しんだり、シャワーやタオルなどに見立てたりして遊ぶ。【知】【思】

協議内容と改善案について

○ 一人でじっくり「遊び込む」から、友達とのやり取りを増やしていく環境づくり
　・自分たちで操作して楽しめる教材（シャワー）の工夫
○「児童が準備する、自分でつくる、一緒につくる」教材の工夫
○遊びを継続していくための工夫
　・児童が、やりたいことや好きな感覚を見付けられる活動や教材等の準備
　・振り返りでの画像の使用
○愛着のあるキャラクター（すまいるちゃん）による仕掛けの工夫
　・遊びを深めるための課題をもたせた遊びの変化　・気付きを促す言葉掛け

指導助言（秋田県教育庁　特別支援教育課　指導主事　藤井奈緒子　氏）

・二人の児童が上を見上げてシャワーを期待している。児童が操作できるようにするなどのさらなる工夫が必要である。思考を引き出す物的環境の設定を工夫すること。
・お風呂づくりや片付けの場面に関わりが見られる。
・本時の学習活動への参加が難しい児童が楽しめる個別の教具を準備してはどうか。
・風呂上がりの飲み物の場面で、児童が注ぐまねをしていた。注ぐ活動を楽しめるような工夫をしてはどうか。
・大人と遊ぶ段階の児童については、遊びに誘うなどしていろいろな遊びが経験できるようにすること。
・振り返りについて、どう遊び、どう工夫したかという遊び方の工夫を言語化し、児童に伝える工夫をすること。

成果と課題　　◇…成果　◆…課題

◇すまいるちゃんを活用し、ストーリーに沿って毎時間同じ流れで活動を展開した。授業のまとめに向けては、すまいるちゃんが寝る、片付けて教室に帰る、手紙をつくるという、ストーリーを使った自然な流れで振り返りを設定することができた。
◇教材を提示する際は、教員も「紙」でなく、「お湯」や「入浴剤」などと見立てて言葉掛けすることを共通理解して指導した。教師も遊びの世界に浸って教材を提示したり一緒に遊んだりすることで、児童が素材を見立てて遊ぶことを知ったり周りの様子を見て遊んだりする姿につながった。
◆児童が思考や試行しながら遊ぶための教材の提示方法が難しかった。何をどこまで準備しておくか、入浴剤等の遊びを広げるアイテムをどのタイミングでどのように出すかなど、教員間での細かい打合せが必要だと感じた。

いい湯だねシールを貼る場面

すまいるちゃんを中心に背中を洗って遊ぶ様子

友達が操作するシャワーに興味をもって見る様子

（２）授業実践②【小学部４年１組　生活単元学習】

単元名　「にこにこウーバー～ハッピーポテトやさん～」（総時数 34 時間）	
単元の目標 ・自分の役割や必要な道具などが分かって、製作や調理、接客練習をする。【知】 ・服装、身だしなみなど接客に必要なことが分かる。【知】 ・相手に伝わる話し方や適切な関わり方が分かる。【知】 ・届ける相手のことを考えて、丁寧にお店に必要なものをつくったり、衛生面に気を付けて調理したりする。【思】 ・自分から製作や調理などの活動に向かう。【学】 ・接客練習やお店屋さんの開店を通して、やりとりを楽しんだり達成感を味わったりする。【学】	
単元設定の理由 児童全員が学級の友達を意識しているが、適切な関わり方や発声の自信のなさから積極的に関わりを求める姿が少ない。製作活動は全員が好きな活動である。春にじゃがいもを植え、水やりや除草、成長の観察などを行ってきた。収穫や調理、試食をしたところ、「友達や先生にプレゼントしたい」「ポテト屋さんをしたい」という児童の発言があり本単元を設定した。相手に喜んでもらったり感謝されたりする経験を重ねることで達成感を味わい、自信をもって活動したり他者と関わったりする姿につなげたい。	
「自分の役割」に取り組むための手立て 及びめあてにつながる「振り返り」の手立て	**児童の変容**
◎やることが分かり、意欲的に学習に向かうための学習設定 ・一単位時間の学習をポテトやさんの練習→製作→ポテトやさん(お客さん役)という流れで統一した。 ・お店屋さんを開くことへの意欲を高めるために、地域のファーストフード店に校外学習に行って見学やインタビューをする活動を設定した。	・ポテトやさんの練習をするときは看板やエプロンを自分たちで準備する、製作のときは必要な道具を準備する姿が見られた。 ・校外学習では、フライドポテトの試食と「お客さんと話すときに気を付けていること」「服装で気を付けていること」などについて質問した。製作場面では、お店で見たものをイメージしながらつくったり、接客場面で「大きな声」「笑顔」に気を付けて話したりした。
◎思考や試行を引き出す人的及び物的環境の設定 ・必要な材料や道具、気を付けるポイントを考えて書き込める手順表を準備し、児童が活動中に活用するようにした。 ・よい例と悪い例を提示して比較する時間を設定した。	・「はさみ」「のり」「両面テープ」等の写真カードから必要なものを選択して手順表に貼った。製作時、始めは手順表を頼りに自分から道具を準備していた児童も活動を繰り返すことで使う道具を覚えて一人で準備した。 ・「いいねはどっち」という問い掛けに二つを比較してよい例を選んだ。また、「隙間なく色を付ける」「まっすぐ切る」などのポイントに気付き、気を付けて製作した。
◎達成感を感じ、次時の学習につながる振り返りの設定 ・友達の頑張りを認めて表現しやすいよう「いいねカード」を準備して、振り返りの際に「いいね」と認め合う活動を設定した。 ・児童の気付きを「いいねポイント」としてまとめて、次時の導入で確認した。 ・ポテトの形をした予定表に、にこにこマークを貼る時間を設定した。	・友達の発表を聞いたり成果物を見たりして、「いいね」と認め合う姿が見られた。他の学習場面や休み時間などにも「いいね」と言い合う姿が増え、友達のよい所を見付けようとする意識が育ってきた。 ・予定表に、にこにこマークを貼りながら、次の活動にも目を向け「次は○○を作る」と見通しをもった。また、「次は○年生にも届けたい」と話す児童も見られ、活動の意欲につながった。

10 月 27 日（木）　学部授業研究会

本時の目標（本時 15・16／34）

・教師や友達とのやりとりを楽しみながら、よく見て画用紙を切り貼りしたりステンシルで模様を付けたりしてポテトカップのカバーをつくる。【知】【思】【学】

協議内容と改善案について

○振り返りの工夫
　・自分の役割を果たしたという達成感につながる児童主導の振り返り
　・ＩＣＴ（テレビ電話）の活用や製作物の提示による振り返り
○友達との関わりや、やり取りを楽しむ場面の工夫
　・制作活動場面とウーバータイム場面を分け、それぞれのねらいを保障
○導入の工夫による思考のつながりの工夫
　・導入時に衣装を着たポテト屋さんが登場したことよる期待とやる気の向上
○協働できる環境の工夫
　・児童からグループリーダーを選出等、活躍できる場面の設定

指導助言（大曲支援学校せんぼく分校　副校長　佐々木義範　氏）

・学ぶために学び合いをする。学ぶ（目的）、学び合い（手段）のばすが、本来手段となるべきものが目的になってしまっていることがある。めあてと振り返りも同様で、めあてや振り返りは学ぶための手段のはず。目的になってないか。
・「導入、めあて、振り返り、まとめ」にかなりの時間に費やされていた。時間を取らなくても工夫（下記に記す）により学習できる。
（例）空き教室等につくった物等を置いて、徐々に増やしていく。
　　個に応じた言葉掛け（「とんとんプロ。」「はさみ名人だね。」等）で評価する。
　　目標個数について、ウーバーする相手の写真に完成品を置く。
・振り返りとまとめのやり方は授業形態や発達段階により違ってくる。授業でやってみたらよかったという「ベター」なものを見付けていってほしい。

成果と課題　　◇…成果　◆…課題

◇自分たちで必要な道具や気を付けるポイントを考えて手順表を作成したことで、思考が深まり、道具を自分で準備したりポイントを意識して製作したりする姿につながった。また、教具の工夫により児童が一人で活動に向かう姿が多く見られた。
◇一単位時間に製作活動だけでなくポテトやさんの練習をする場面を設定したことで、児童の意欲が持続するとともに、お客さんに届けたいという気持ちにつながった。
◆学習の気付きを「いいねポイント」としてまとめて、次時の導入で確認する時間を設定した。児童の気付きを積み重ねていく意味では有効であったが､振り返りに時間が掛かってしまった。児童が達成感を味わって次時に意欲をもつシンプルな振り返りの仕方について検討が必要である。

ポテトやさん役とお客さん役に分かれて、注文と配達の練習をしている場面

カップカバーにステンシルでにこにこマークを付けている様子

ポテトに見立てた予定表に、にこにこマークを貼り、ポテトを刺して達成感を味わった場面

６　成果と課題

（１）成果

①　「思考や試行」に向けた児童の姿のシミュレーション

小学部の目指す意欲的に自分の役割に取り組む児童の姿と、単元（題材）で目指す児童の姿をすり合わせながら単元構成検討会を実施した。児童自らが考えたり試したりする姿を引き出すための手立てと、その手立てを用いるタイミングや方法等について、具体的に検討することができた。

遊びの指導では、周りへの興味関心を広げるための手立てとなるキャラクターの活用や、新しい遊び方を自分で見付けるための手立てとなる「入浴」をテーマにした単元を行った。「準備、洗体、洗髪」など入浴に関する行動をストーリーに沿った流れで設定したことで、児童にとって分かりやすく、自分で工夫しながら遊ぶことのできる単元となった。

また生活単元学習では、どちらを選択すべきかについて児童が考える場面を設定するために「よい例と悪い例」を提示したり、必要な材料や道具、気を付けるポイントを自分で確認しながら活動するための手順表を準備したりした。

どちらの授業においても「思考と試行（考えたり試したりする姿)」を目指すために有効な手立てとなった。

②　児童の取組等を価値付ける即時評価と、次時につながる振り返りの「見える化」

前時及び本時の振り返りに「見える化」の視点を取り入れることで、児童の次時への意欲の喚起と思考の継続を図った。

遊びの指導では工夫して遊んでいる場面や、面白い遊び方をしている場面等で即時評価をしたり、活動の終わりの部分を動画で振り返ったりしたことで「もっと遊びたい」、「友達のように自分も遊んでみたい」という意欲の喚起と次時への期待感を高めることができた。また、活動中に製作した教材を廊下に掲示しておくことで、思考の継続を図ることができた。

生活単元学習では授業中の児童の気付きを「いいねポイント」として即時評価し、意欲の喚起を図った。さらに「いいねポイント」を次時の導入で用いることで前時の記憶を想起させたり、予定表を教室内に掲示しておくことで、思考の継続と次時への期待感につなげたりすることができた。

（２）課題

①　期待する児童の姿のイメージの共有

単元のテーマに沿った多くの教材・教具を準備し授業を展開することで、児童が思考や試行を繰り返しながら、活発に活動する様子が見られた。その反面、児童の気付きや友達との関わりなど、児童の思いに寄り添いながら目指す児童の姿に向けた教材の提示や言葉掛けのタイミングについて、教員間でさらに共通理解を深めて指導に当たることが課題として挙げられた。

②　思考の継続のための日常的な「振り返り」とシンプルな「導入」による意欲の喚起

本時における気付きや、良かった点について丁寧に振り返りを行った結果、導入や振り返りに多くの時間を費やしてしまうことがあった。児童に対して本時における達成感や満足感を実感させることのできる、授業形態や発達段階に合わせた振り返りやまとめの形を検討していきたい。

＜参考文献＞

文部科学省（2018．3．30）：特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）
文部科学省（2018．3．30）：幼稚部教育要領解説

中学部の研究

中学部の研究

１　中学部の目指す生徒像（学部経営案より）

（１）体力づくりを実践し、心身ともに健康に生活する生徒

（２）自分のよさを発揮し、互いを認め合う生徒

（３）自分の目標をもち、粘り強く取り組む生徒

２　中学部の目指す意欲的に自分の役割に取り組む生徒の姿

（１）求められていることややるべき活動が分かり、主体的かつ意欲的に参加する生徒（見通し）

（２）他者の役に立つことに喜びややりがいを感じ、進んで行動しようとする生徒（奉仕）

（３）活動や役割の必要性が分かり、課題の解決に向けて努力しようとする生徒（意義の理解）

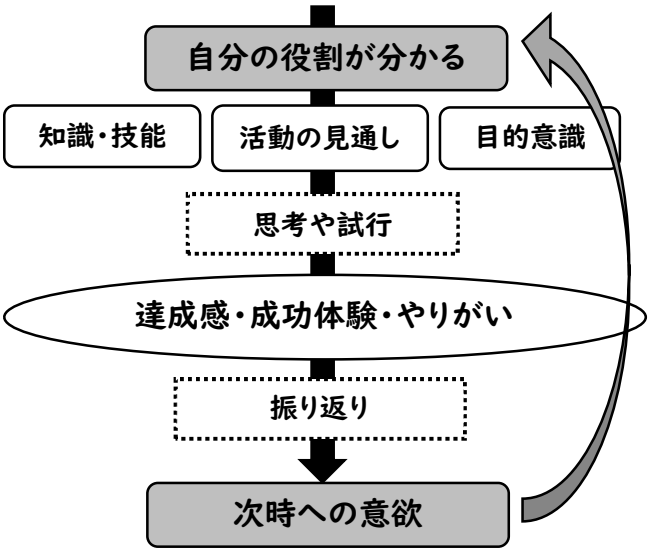


図１：研究のイメージ図

３　研究の方法

授業づくりの視点	方　法
・年間指導計画に基づく単元構成検討	・単元を構成する学習内容や目標の検討・改善 ・生徒に身に付けさせたい力の明確化 ・学校行事と関連させた活動の設定（販売会等）
・次時のめあてにつながる振り返りの在り方の検討	・活動のゴール（目標）の見える化 ・作業日誌の形式、活用方法の工夫 ・学びのプロセスが見える板書の工夫 ・ＩＣＴ機器の活用
・一人一人の役割意識を高めるための工夫	・意欲の向上につながる製品や販売会の設定 ・作業工程、環境設定の見直し ・事例となる生徒の抽出による手立ての検討

４　研究の計画

月	日	主な活動
4	27(水)	学部研究会①（学部研究の方向性の共有）
6	6（月）～10(金)	作業学習週間①
6	13(月)	学部研究会②（作業学習週間の振り返りと改善案の検討）
8	30(火)	学部研究会③（全校授業研究会の単元構成検討の具体化）
11	4(金)	事前研究会（ビデオ撮影）
11	14(月)～18(金)	作業学習週間②
11	22(火)	全校授業研究会「作業学習　布加工班」 ・生徒が自分の役割を自覚し、思考と試行を引き出す手立てと振り返りについての検証
		単元検討会（９/12)、指導案検討会（10/14）
1	26（木）	学部研究会④（各作業班の実践紹介による取組の共有と整理）
3	13（月）	学部研究会⑤（研究のまとめと次年度に向けた協議）

５　研究の実際

（１）学部研究会の取組

①　役割が分かり、自ら取り組む姿の具現化に向けて

学部研究会①では、中学部における「役割」の捉えについて、「集団の中で、自分が求められている、または果たすべき活動」とした。自発的に取り組むための方法について作業班ごとに協議し、生徒の興味・関心と作業内容とのマッチング、実態に応じた工程の設定とその習熟に向けた教材・教具の充実などが挙げられた。

学部研究会②（作業学習週間直後に実施）では、授業の展開や作業内容・手順、教具の妥当性を検討できるよう、各班から対象となる生徒を事前に抽出し、支援の評価を行った(図２)。検討の視点として「すべての子どもが『分かる』『できる』授業づくりガイドブック【改訂版】」（高知県教育委員会　令和３年３月）を活用した(図３)。

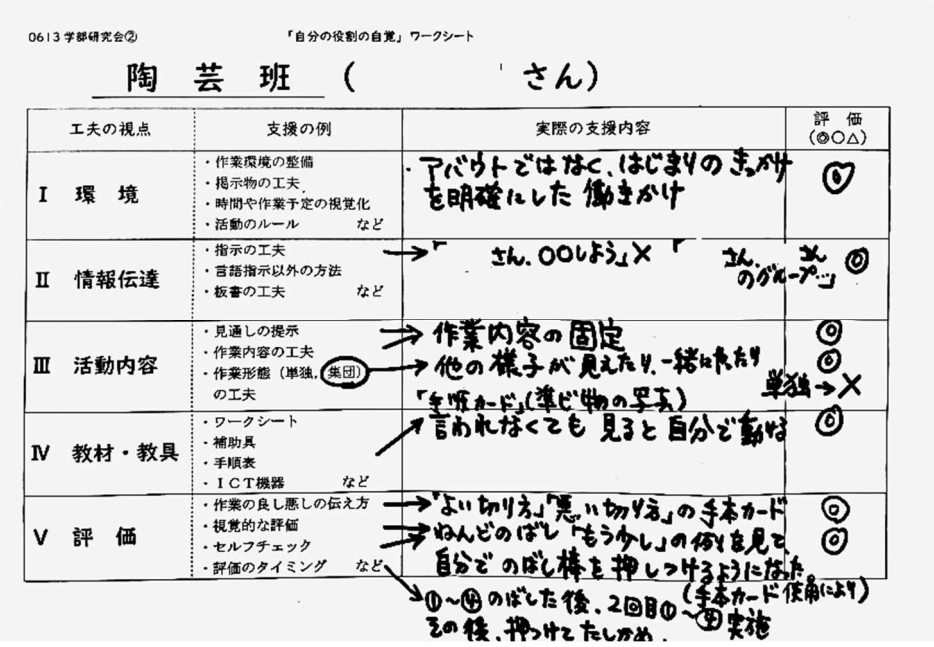


図２：抽出生徒の評価

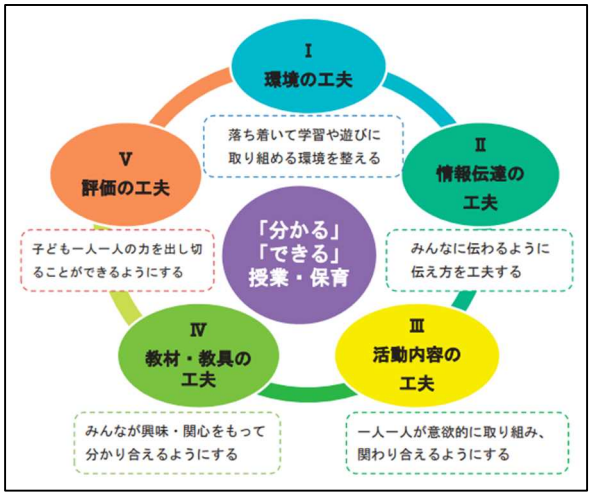


図３：検討の視点

②　振り返りを積み重ねるためのめあての在り方について

学部研究会①では、後々の振り返りに生かすことができる日誌の活用方法や個々の振り返りを班全体で共有するための方策について協議した。学部研究会②では、作業学習週間の様子を中心に、４月からの取組について生徒の変容を基に、各班で協議した。主な成果として日誌の形式の修正により目標の意識化等、課題としては導入・振り返りに要する時間と作業時間の兼ね合い等が挙げられた。

学部研究会③では、全校研究会②（７/27）で協議した授業デザインシートを活用し、今後の指導計画や題材、それに伴う自ら取り組むための具体的な手立てについて各班で協議した。

③　日誌の活用方法の見直しと補完する手立て

学部研究会①で、全ての作業班で作業日誌（形式、活用）の見直しの必要性が挙げられた。各班が生徒の実態、作業の特性を考慮し、前時の振り返りを本時のめあてにつなげるための項目や評価欄について検討し、日誌に次時の目標の記入欄を設けたり、書字以外で記入できるよう複数の形式を準備したりするなどの修正案が出された。また、授業の導入やまとめにおける日誌の活用方法、板書等の関連付けについて協議した。学部研究会②ではそれらの取組や生徒の変容について評価を行い、次の単元に向けて見直しを図った。

また、思考や試行の過程を振り返りに生かす上で、自身の記憶や日誌を補完するための掲示物やＩＣＴ機器の効果的な活用の充実に向けて継続的に改善を図った。

④　創立 30 周年記念事業との関連付け

創立 30 周年の記念品として、陶芸班は「ペーパーウエイト」を、紙工班は小学部の「ありがとうカード」の台紙製作を担当した。「学校のために」「お客さんのために」などの意欲付けにつながるよう、校長や担当職員から直接依頼を受ける場を設けたり、日々の製作個数を表にしたりした。また、生徒が自らの役割を自覚して取り組むことができるよう工程を分担し、流れ作業で製作した。

（２）授業実践

授業実践【中学部　作業学習（布加工班）】

単元名

「冬の模様の布巾やバネロポーチをつくろう～わくわく販売会②・PTA販売会に向けて～」

（総時数 39 時間）

単元の目標

・担当工程における注意点が分かり、ミシン掛けやステンシルに取り組む。【知】
・買い手が喜ぶような製品の仕上がりについて考え、製品づくりに生かす。【思】
・自分たちで作った製品が認められる経験を通して、喜びや満足感を十分に感じながら製品づくりや販売活動に取り組もうとする。【学】

単元設定の理由

生徒は６名全員が今年度初めて布加工班に所属した。これまでの学習の積み重ねにより、それぞれが自分の担当工程や作業内容を理解して手順に沿って取り組んでいる。完成品を家族にプレゼントしたり、校内外で販売したりしたことで、自分たちが一生懸命製作すると、身近な人や買い手が喜んでくれるという実感をもつことができ、進んで作業に取り組む姿が増えてきた。買い手が求める仕上がりのよいきれいな製品とはどのような製品かについて自分たちで具体的にイメージして、担当工程における注意点と結び付けながら製作することで、喜んでくれる人のためにより一層夢中になって取り組もうとする姿が期待できると考え、本単元を設定した。

「自分の役割」に取り組むための手立て 及びめあてにつながる「振り返り」の手立て	生徒の変容
◎進んで取り組むための環境整理と教材・教具等の工夫 ・効率的な動線に配慮して道具の置き場を設定した。 ・教材・教具、補助具を個の課題に応じて工夫したり、写真や簡単な文章で注意点を示したチェックシートを手元に置いたりした。	・教室内の環境を整理したり、教具や補助具を個の課題に応じて工夫したりしたことにより、生徒一人一人が教員の言葉掛けに頼ることなく、準備・製作・片付けと一連の作業に進んで取り組もうとする姿が見られるようになった。
◎仕上がりの良し悪しの判断基準 ・きれいな製品を作るための注意点について、工程ごとに話し合い、自分たちの考えを表にまとめて掲示した。 ・写真や短い文章で視覚的に分かりやすく提示した観点表を用意し、報告時に観点表と完成品を見比べて、仕上がり具合について一緒に確認するようにした。	・観点表を活用することで、判断基準が分かり、自分で仕上がり具合について判断するようになってきた（写真１）。「教員の判断を受け入れる」姿から「教員と一緒に、または自分でチェックする」姿への変容が見られた。
◎個に応じた「振り返り」 ・本時の取組を確実に次時に生かすことができるように、日誌の記入を通して個別の振り返りを行い、その後次時の目標をすぐに記入するようにした。	・最初は教員と一緒に振り返ることが多かったが、進んで日誌を記入する姿が見られるようになってきた。「薄いところがないように」「きれいにできてよかった」などのつぶやきが多く聞かれるようになり、本時の振り返りを生かして自分で次時の目標を決める様子が増えた（写真２）。

11 月 22 日（火）　全校授業研究会

本時の目標（本時 33・34／39）

・担当する工程の注意点に気を付けながらミシン掛けやステンシルの作業に取り組む。【知】【思】

協議内容と改善案について

〇振り返りを次時のめあてにつなげるために

・導入が長いので、作業をしながら個々に前時の反省点や注意点を確認する方がよい。

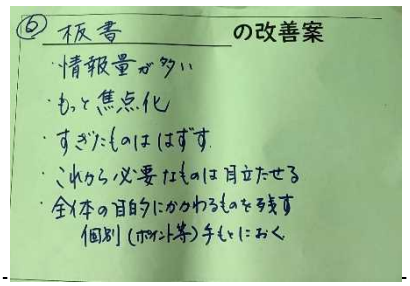
・完成品のよくないところを探すより、よいところを認め合えると次時のモチベーションにつながる。

・振り返りの時間が長く、繰り返しになっている。

〇一人一人の役割意識を高めるために

・生徒同士でできた物を受け渡し、次の工程の担当者につなげるなど、やりとりの中で班としての一体感をもてるとよい。

・黒板の情報量が多いので、全体に関わるものは残し、個別の観点表は手元に置くなど、内容を精選する必要がある。



指導助言（特別支援教育課　主任指導主事　菊地真理　氏）

・授業の中で、生徒同士がやりとりする場面が少なかった。友達がやっていることを認め合い、評価し合える仕掛けがほしい。

・布巾は見栄えだけでなく使いやすさも大事である。客層によって求めるものが違う。喜ばれる製品とはどのような物か、自分たちで考えられるような働き掛けをしてほしい。

・振り返りの仕方は、みんなが均一ではない。実態把握をした上で、この生徒だからこういう振り返りをする、という意図が教員の中で明確になっていることが大事である。

・自立活動の視点をもち、生徒が自分一人でできるように、残す支援と抜くべき支援を考える必要がある。

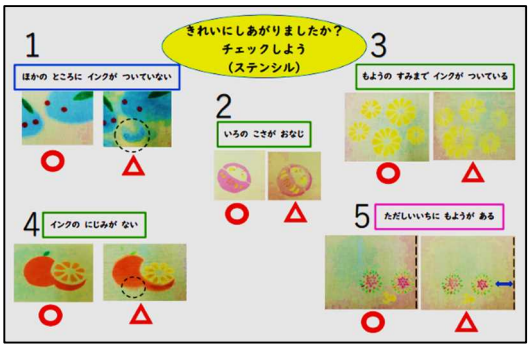
成果と課題　　◇…成果　◆…課題

◇個に応じた補助具や日々の積み重ねにより、役割が分かって一人で取り組めた。

◇観点表を生徒と教員が一緒に確認することで、「きれい」の基準が明確に分かった。

◆工程間のつながりが分かり、全体の一員であることを意識できるように、生徒同士でやりとりをする場面を設定する。

◆短い時間で的確な振り返りをして次時につなげられるよう、個々に合った振り返りの方法を考える。



（写真１）生徒と教員が一緒に確認できる観点表

（写真２）完成品を用いた個々の振り返り

６　成果と課題

（１）成果

①　生徒自身が見通しをもって進んで取り組む姿

作業の流れや内容をある程度固定し、定着に向け同じ流れを繰り返すことで、見通しをもって進んで取り組む姿が見られた。また、作業班ごとに日誌の形式を見直し、次時の目標を事前に記入できるようにしたことで、次時の日誌記入で迷う様子が減少した。

②　生徒の長所を生かした工程分析と課題解決に向かう姿

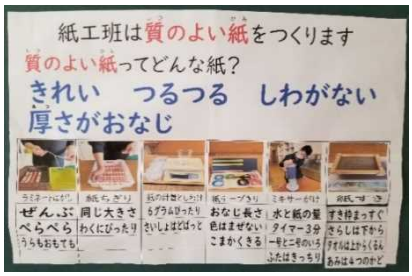
生徒のよさや得意なことを生かした工程の中で、質の安定につながる教具を用い、工程分析の充実に努めた（写真３）。

意欲的に取り組んだことで、失敗や修正点があっても粘り強く挑戦したり、流れ作業の中で次の工程のことも考えながら取り組んだりするなど、試行錯誤を経ながら仕上がりのよい製品を作ろうとする姿が見られた。

（写真３）質を保つための教具の活用

③　仕上がり基準の視覚化の促進による共通認識

製品の良し悪しの基準を明確にするとともに、それらについて見やすい掲示をしたり、手元に置いてチェックできるようにしたりしたことで、生徒が自ら判断したり、自信をもって取り組んだりする様子が見られた。また、教員と生徒間で言葉の意味や感覚を共有するためのツールとなり、具体的な振り返りにつながった（写真４）。



（写真４）具体的な基準を記した掲示

（２）課題

①　協働場面の設定

役割を固定化したことで、自分が取り組むことが明確になった反面、製品が完成するまでの一連の工程の見通しがもちづらかった題材もあった。単元の始めに全員で全工程を体験するなど、自分の担当以外の作業にも触れておくことで、自他の工程や役割の必要性を実感し、「次の工程のために」という思いをもった活動が期待できると考える。

②　個に応じた評価方法の検討

即時評価が難しい場合や、本時の振り返りと次時のめあてとの関連付けなど、個々の実態に応じた振り返りについて時間を要することが多かった。生徒自らが成長や課題に気付き、理解が深まるためのＩＣＴ機器を活用した客観的評価など、効果的、効率的な手立ての充実が求められる。

③　役割意識の持続に向けた活動機会の設定

作業製品販売会の機会設定と充実、今年度（創立 30 周年記念）のように明確な目標を継続的に設定していくことで、より一人一人の役割意識の高まりにつながると考える。

〈参考文献〉

高知県教育委員会（2021.3）：すべての子どもが「分かる」「できる」授業づくりガイドブック【改訂版】

高等部の研究

高等部の研究

1　高等部の目指す生徒像（学部経営案より）

（1）　健康と安全に気を付け、規則正しい生活をする生徒

（2）　互いを認め合い、共に高め合いながら生活する生徒

（3）　自分の力で最後までやり遂げるたくましい生徒

2　高等部の目指す意欲的に自分の役割に取り組む生徒の姿

・めあてを意識し、振り返り※を積み重ねて次につなげる生徒

・活動に取り組む中で、自分に合った取り組み方を選択して実践する生徒

・求められていることや集団における自分の役割が分かり、責任をもって活動に取り組む生徒

※「振り返り」・・・授業の終末場面に限らず、中間評価等における振り返り、個々の自発的な振り返りも含む。

3　研究の方法

授業づくりの視点	方　法
・年間指導計画に基づく単元構成検討	・単元を構成する学習内容や目標の検討・改善 ・生徒に身に付けさせたい力の明確化
・めあてにつながる振り返りの方法 ・個々の自己省察を促す学習場面の設定	・肯定的な即時評価や評価を積み重ねるためのタブレット端末の活用 ・作業日誌の様式の検討及び活用 ・めあての達成に向けた教員の言葉掛けの内容検討 ・個々のめあてを共有するための環境設定の工夫
・一人一人の役割意識を高めるための工夫	・各作業班における「役割に取り組む姿」についての検討・焦点化 ・役割に取り組む力を高めるための人的環境・物的環境の工夫

4　研究計画

月	日	計　画
4	27（水）	学部研究会①（学部研究の方向性の共有）
6	23（木）	学部研究会②（作業学習における役割の確認、思考と試行の振り返りを促す手立ての検討）
7	19（火）	学部授業研究会研究授業　「作業学習　木工班」
		単元構成検討及び指導案検討会（6／16）
8	30（火）	学部研究会③（自己省察を行うための手立ての改善と検討）
12	6（火）	学部授業研究会研究授業　「作業学習　陶芸班」
		単元構成検討及び指導案検討会（11／28）
1	26（木）	学部研究会④（各作業班の実践紹介による取組の共有と整理）
3	13（月）	学部研究会⑤（研究のまとめと次年度に向けた協議）

５　研究の実際

（１）　学部研究会の取組

キャリア教育の視点から、高等部は卒業後の社会生活や職業生活に必要な知識や理解を深め、進路を選択する力を育てる段階であることを確認した。それを踏まえ、意欲的に役割に取り組む姿につなげるために、生徒が振り返りを積み重ねる中で自己省察の習慣を養い、自己理解を深め、自分に合った取組を選択したり、自己有用感を高めたりする授業づくりを行うことが大切であることを共通理解した。

①　作業学習における役割の明確化と役割意識を高めるための指導・支援についての検討

高等部の作業学習における役割、自分の役割を果たしている姿、自分の役割を果たす姿を支えている力について作業班ごとに協議した。各作業班で協議された内容を整理すると図１のようにまとめられた。

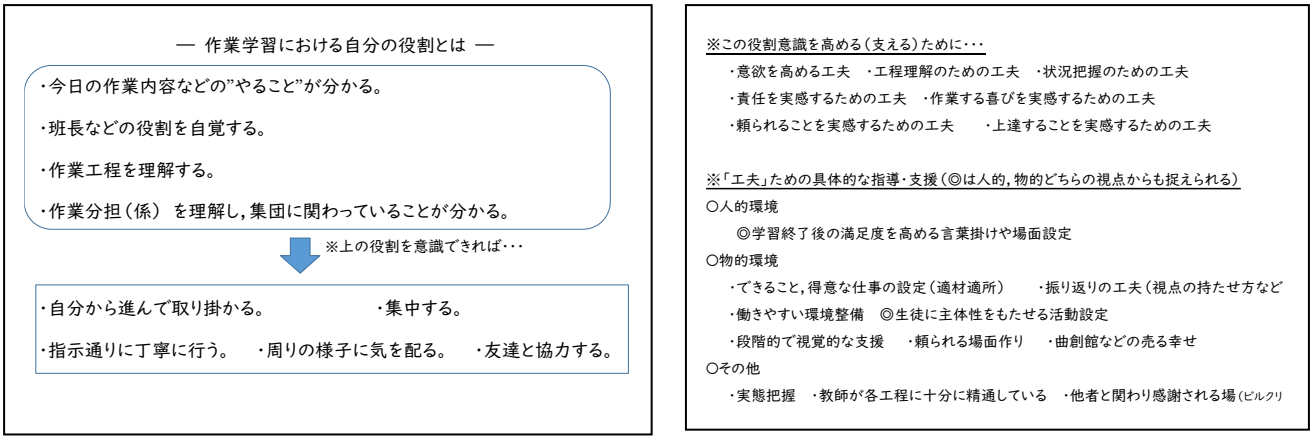


図１　作業学習における自分の役割

②　思考や試行の振り返りを積み重ねるための個々の自己省察を促す授業づくりについて

学部研究①の取組では、自分の行動を振り返る活動（他者評価を交えながら）を積み重ね、自己省察の習慣を付けていくことが自己理解につながることを確認した。そこで、目指す自己省察の姿を①自分の言葉で振り返り、次の行動を選択したり決めたりして実践する姿　②言葉の表出が難しい生徒は、活動に進んで取り組んでいる自分の姿が分かり、その姿を目指そうとする姿と共通理解した。

学部授業研究会では、指導助言者である秋田大学の前原和明准教授より就労支援の観点から、どの職場でも自分の力を最大限に発揮するためには「補完行動」「補完手段」「他者による支援・指導」の視点が重要であり、特に「障害等を補うための方法を検討する」補完行動を自律的に行えるようにしていく必要性を御助言いただいた。学部研究で取り組もうとする自己省察の習慣を養い、自己理解を深めていくことが補完行動の土台になっていくことを共通理解できた。

個々の自己省察の習慣を養う授業を目指して、一授業内の個々のＰＤＣＡサイクルの充実（図２）タブレット端末の活用、作業日誌の活用と改善（写真１）の必要性を確認し、日常的に効果的な方法を試したり他の作業班で情報交換したりしながら授業改善を図った。

タブレット端末の活用は、即時評価や中間評価の際、生徒自身が自分を客観視する上で効果的であることや、自分の考えを話すことが苦手な生徒がタブレット端末を活用した自己表現を通して意欲が高まることなど様々な効果が期待される。一方で研究授業の協議の中で、タブレット端末を使うタイミング等について課題が挙がった。研究会で課題を共有、整理し、評価の積み重ねや、肯定的な即時評価の効果等について話し合い、授業に生かした。

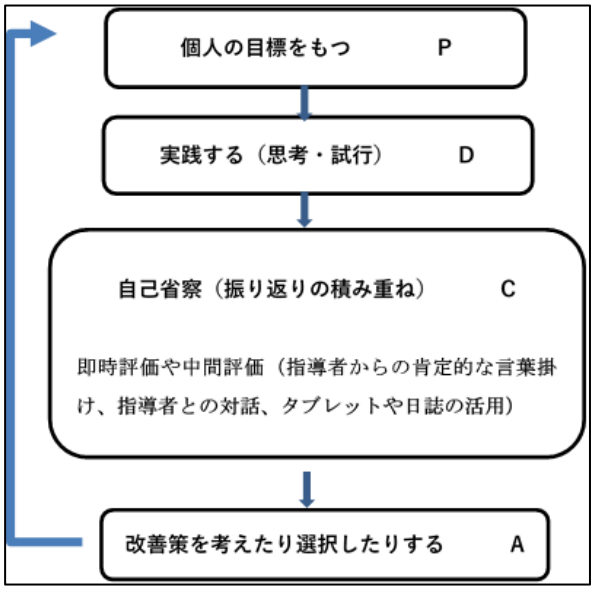


図２　授業内の個々のＰＤＣＡサイクル

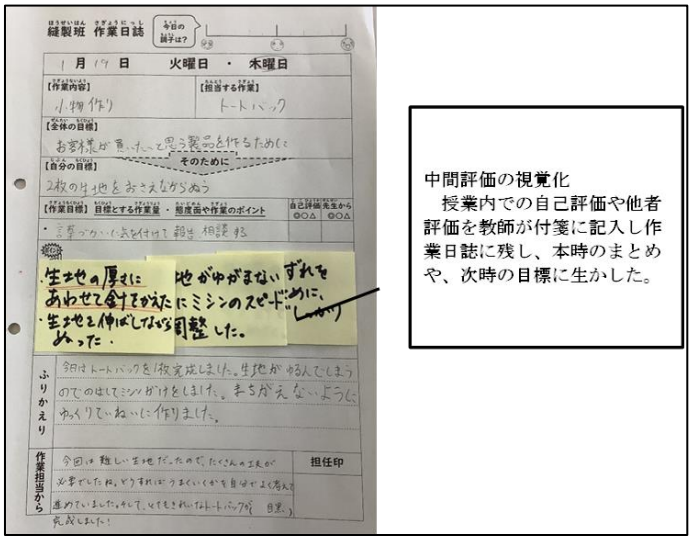


写真１　作業日誌の活用

③　役割意識を高めるための環境設定

一人一人の役割が何につながっているかを実感できるよう、地域の店舗３か所でのアンテナショップ（曲創館）の運営、年２回の販売活動、校外での清掃活動を実施した。

アンテナショップと各作業班をつなぐ役割として各作業班のリーダーを事務局員とし、定期的に事務局会議を開いて運営を行った。事務局員は実際に店舗に出向き、店員から売れ行きや客の声などを聞いてそれを各作業班に伝達する役割を担った。（写真２、写真３）各作業班では、その情報を基に製品作りへの改善や新たな製品作りに取り組んだ。

販売活動やビルクリーニング班の校外清掃活動では、自分たちの製品に対する評価をお客様から直接もらったり、仕事に対する感謝の言葉を受けたりすることで生徒たちの達成感や有用感を実感する機会となった。

写真２　アンテナショップの情報の廊下掲示

写真３　アンテナショップの情報整理

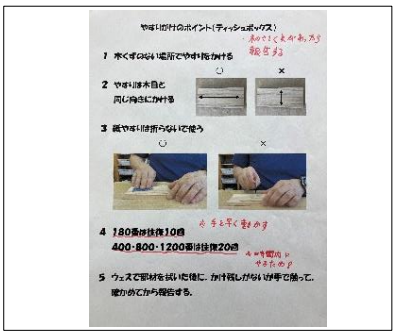
（２）授業実践

①　高等部　作業学習　木工班

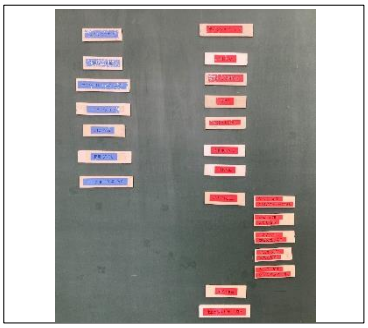
<table>
<tr><td colspan="2">単元名　「販売会・曲創館納品に向けて①～すのことティッシュボックスを作ろう～」（総時数 60 時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">単元の目標
・傷がなく、手触りや見た目のよい製品を作るには、部材を丁寧に扱ったり、慎重に機械や道具を使ったりしなければいけないことに気が付き、実践する。【知】
・仕上げた製品を確認して、目標が達成できたか、課題を改善するには、どうしたらよいかを考え、作業環境を整えたり、作業方法を工夫したりする。【思】
・作業工程を覚え、担当する作業が終わったら、自分で考えて次の作業に取り掛かる。【学】</td></tr>
<tr><td colspan="2">単元設定の理由
生徒の実態として、全員が指示をよく聞いて、集中して作業を行っている。製作への意欲は高いが、不注意や慣れから、製品に傷をつけたり、組み立ての際にずれが生じたりすることがある。販売会に向け、仕上がりのよい製品とは何かを考えながら製作を行うことを通し、自分の役割を意識したり、製作する喜びや成就感を味わったりすることができると思い、本単元を設定した。</td></tr>
<tr><td>「自分の役割」に取り組むための手立て
及びめあてにつながる「振り返り」の手立て</td><td>生徒の変容</td></tr>
<tr><td>◎自分で作業に取り組むための工程表
・自分で必要なものを準備して、作業を始められるように、工程表を黒板に掲示する。</td><td>・何を次にしたらよいのか、教員に聞きに来ることが多かったが、工程表を見て、次の工程に必要な物を準備するようになってきた。</td></tr>
<tr><td>◎仕上がりを確かめるための掲示物
・報告する前に自分で仕上がりを確認するために、よい例と悪い例の写真や失敗しないためのポイントを掲示したり、完成品を机上に提示したりする。</td><td>・自分が気を付けるべきポイントが分かり、教員に報告する前に、自分で仕上がりをよく確認してから、報告していた。</td></tr>
<tr><td>◎めあてを評価するための工夫
・めあてを達成できたか自己評価するために、本時で製作した製品を各作業机に提示する。</td><td>・製作した製品を提示したことで、めあてが達成できたかを、よく考えながら振り返りをしていた。</td></tr>
</table>

７月 19 日（火）　学部授業研究会
本時の目標（本時 50～52／60） ・部材や道具の扱い方を考えて製品を作る・・・・【知】【思】【学】
協議内容と改善案について **〇自分で気付いて工夫するために** ・ポイントカードに、気付いたことや改善点を生徒自身が付け足していく。 ・生徒がミスをした場合、どうすればよかったのか、なぜミスをしたのかを、もっと質問して話し合う。 **〇生徒の気付きを増やすために** ・生徒からの報告の際に、「前回より上手くできたのか」「何を工夫して作業をしたのか」など、深く掘り下げた質問をしたり、ポイントカードを見直したりしてもよかった。 ・生徒同士のやりとり、学び合いの場面が増えれば、気付きが増えたかも知れない。 **〇役割意識をもたせるために** ・生徒同士で得意なことや特徴が分かると、お互いの役割意識や所属感が高まるかも知れない。
指導助言（秋田大学教育文化学部　准教授　　前原和明　氏） ・ポイントを確認したり、完成品と比較したりして作業を行ったことで、生徒が自信をもって作業をすることができたと思う。 ・実態把握やアセスメントの視点から指導を見直すことができる。 ・補助具やポイントカードを用意するだけではなく、補完行動（障害等を補う方法の検討）を育てる視点を大切にしてもらいたい。 ・社会参加に向けて、普段の指導をどのように職業生活に向けて般化していくのかを考えた授業作りをしていってほしい。

成果と課題　　◇…成果　◆…課題
◇作業工程で注意する点をまとめたポイントカードを見たり、完成品と見比べながら作業を行ったりしたことで、どうすれば仕上がりのよい製品を作ることができるのか考えながら作業をしていた。 ◆生徒同士のやり取りが少なかった。成果を共有したり、生徒が行っていた工夫等を紹介したりして、話合いや気付き合いの場面を増やすべきだった。 ◆生徒の考えを深めるために、生徒への質問を増やしたり、報告の際に作業方法等について質問したりすべきだった。



気付いたポイントを付け加えながら作るオリジナルのポイントカード



自分で製作を進めるための工程表

組み立てのずれがないかの確認

② 高等部　作業学習　陶芸班

単元名　「12 月の販売会に向けて製品を作ろう」（総時数 32 時間）	
単元の目標 ・自分の役割や作業工程の留意点に気を付けながら作業を行い、教員に報告して確認を求めたり、良否の判断をしたりする。【知】 ・販売会に向け、目標数を意識し、よりよい製品作りのために自分の担当する作業工程の工夫や改善をしようとする。【思】 ・販売に向けてお客さんに喜んでもらえる製品の製作や準備に意欲的に取り組み、販売会での成果を受け、働くことに対する意欲を高める。【学】	
単元設定の理由 本班の生徒の実態としては、作業内容を理解して目標個数を達成するために黙々と作業を行う生徒がいる反面、なかなか作業に向かう気持ちになれずに寝てしまったり、集中できずに作業を行わなかったりする生徒がいる。後期になって、個別に細かくスケジュールを決めることで見通しをもち、自分の役割が分かって作業できるようになってきた。 本単元では、12 月の販売会に向けて、お客さんが喜んでくれるよりよい製品作りのために、自分の担当工程の留意点に気を付けながら、取り組み方の工夫や改善をする。９月の販売会を振り返ることで、お客さんが製品を選んでいる様子から「お客さんが喜んでくれる製品とは？よい製品とは？」について話し合う場を設定する。一人一人がよい製品を作ろうという意識をもって、自分の役割をしっかりと行うことがよい製品作りにつながることを目指し、本単元を設定した。	
「自分の役割」に取り組むための手立て及びめあてにつながる「振り返り」の手立て	**生徒の変容**
◎意欲的に取り組むための見通しや評価の工夫 ・見通しをもって取り組めるように、個別にホワイトボードで作業の流れや時間を細かく決めた。 ・集中力が続くように、短時間の複数の作業内容を準備して切り替えたり、興味のある写真カードを提示して作業意欲につなげたりした。 ・お客さんの喜ぶ顔から作業の達成感が感じられるように、表情カードで即時評価を行った。	・授業の始めに個別にスケジュールを教員と一緒に設定する場を設けたことで、自分の役割が分かり、自分から作業に取り掛かるようになった。 ・短時間の作業内容を自己選択したり、一つ終えるごとに休憩時間を挟んだりすることで、授業の終わりまで活動を行えるようになった。本人の興味のある写真を提示することで、作業意欲が高まり、自分から作業に向かえるようになった。 ・報告で作業工程の出来栄えがよかったときに、お客さんの笑顔のペープサートで良否を伝えたことで、良品が分かり、作業意欲につながっていた。
◎自分で気付くためのワークシートや提示の工夫 ・自分の役割が分かるように、日誌の作業内容、担当する工程、目標数の記入欄を明確にした。 ・作業工程の留意点が分かるように、各自の作業場所に留意点を貼った。 ・仕上がりの良否判断ができるように、良品の写真や実物を準備した。	・作業日誌を刷新し、自分の担当工程や個人目標の記入欄を設けたことで、自分の役割が分かり、工程での留意点を意識した目標設定ができた。 ・各作業場所に自分で設定した「よい製品を作るために、気を付けること」を掲示することで、作業中に自分で確認することができた。 ・仕上がりの良否の判断に迷う場面で、良品の写真や実物と自分の作った製品を見比べたり、触って確かめたりしながら、製品を作った。
◎振り返りに生かすＩＣＴ活用 ・本時の取組で気付きがあった場面を振り返るために、映像を用いて生徒に伝えた。	・日誌記入のときに、テーブルごとにタブレット端末で撮影した映像を基に振り返ることで、うまくできた要因を教員と一緒に考える材料となり、次時の目標設定への気付きとなった。

12 月６日（火）　学部授業研究会

本時の目標（本時９～11／32）

・自分の担当する作業工程の留意点に気を付けて、よりよい製品を作る。【知】【思】

協議内容と改善案について

〇気付きを見える化するために

・新たな留意点をアップデートしたり、気付きを付け足したりできるように、ラミネートではなく、ファイルに用紙を挟む形式にする。

〇個々に応じた手立てにするために

・ガイドライン、まっすぐ切りやすい板等補助具を工夫する。

・意欲向上のために即時評価を行う他、成果を見える化する。

・生徒の認知特性に合わせて、文字、写真、イラストでの提示を行う。

〇目標設定の焦点化

・留意点を受けて、さらに気を付けるために何をするかが目標につながる。

指導助言（本校教頭　浅沼和子）

・それぞれの生徒が役割や工程に落ち着いて取り組んでいた。補助具や表情カード等の留意点や工夫が授業で生きていた。準備した教材教具が効果的に活用されていたことが、一人一人の分かりやすさ、取り組みやすさになり、研究主題にある意欲的に自分の役割に取り組む力につながる。今後、さらにブラッシュアップしていってほしい。

・11 月の全校授業研究会で、菊地主任指導主事から、生徒が自分の頑張りが分かり、気付きやアイディアが生まれるような振り返りができるようにといった助言があった。活動中、振り返りの中で生徒同士がやりとりする場面を設定することで、思考を引き出すことにつながる。それが気付きやアイディアにつながっていくので、生徒同士の振り返りの場面設定があった方がよい。

・評価を次のめあてにつなげるためには、振り返りの確かな評価が必要であり、教員の根拠に基づいた評価が必要である。副題（めあてにつながる振り返り）につなげるために、役割についての評価を可視化していくことが大切である。個々の目標や役割に対する評価基準を再確認してほしい。

成果と課題　　◇…成果　◆…課題

◇役割が分かって一人で取り組む姿が見られた。

◇各作業場所に「よい製品を作るために、気を付けること」を貼ったことは効果的であり、一人一人が意識して取り組むことができた。

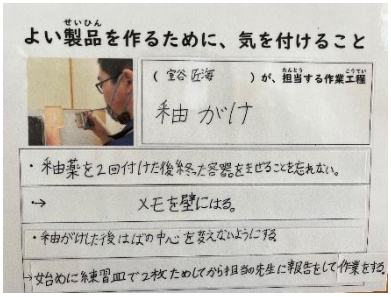
◇振り返りで、タブレット端末の映像を見ながら振り返りを行ったことで、次時の目標設定につながる気付きができた。

◆「よい製品を作るために、気を付けること」については、常にアップデートできるようにファイル式にして用紙の差し替えができるようにする。

◆振り返りでの映像活用は、生徒の思考を妨げないように、個に合わせて適宜用いるようにする。

◆目標設定や振り返りの時間を 20 分から 15 分に設定し、作業時間を十分に確保できるようにする。

スケジュール確認のための個人用ボード



掲示した作業工程の留意点

映像を活用した振り返り

６　成果と課題

（１）成果

①　「個々の自己省察を促す学習場面」を通した学習意欲の高まり

「付せん紙やタブレット端末等による生徒の実態に応じた中間評価」、「生徒個々の目標を教員が共有するための工夫」、「日誌や板書を通しためあての共有や振り返りの内容の充実」を通して、生徒に以下のような変容が見られた。

・効率を考えた作業環境を整えたり、自分に合った取り組み方について試行錯誤したりすることで、自分の課題を見つめ直したり、次時への意欲につながったりした。具体的にはビルクリーニング班で、自分の清掃する様子を見ながら良い点や課題点を把握し、次の活動に生かす姿が見られた。また、縫製班では教員との振り返りの中で、数値目標があると作業意欲が向上することに気付き、自分から数値目標を設定する生徒がいた。

・個人目標に対する本時の取組の振り返りを、付せんや動画等の即時評価を参考にして、自分の言葉で正確に記入できるようになった。また次時の目標を的確に捉え、要点をまとめて記入できる生徒が増えた（農園芸班、染色班）。

また上記の取組が、教員側が生徒の目標達成に向けて取り組む姿を見取り指導していく上で有効であったことが学部研究会で話題に上がった。

②　責任をもって活動に取り組むための、集団における個々の役割設定の重要性

本校高等部独自の取組である各作業班の班長で構成した事務局によるアンテナショップ運営は、生徒同士が作業班の横のつながりを意識することができ、主体的な作業学習を実践する上で効果的であった。

木工班や陶芸班の授業実践にあるように、販売会の詳細や、自分が担当する工程が全体のどの位置に当たるのかを把握することが、責任をもって活動に取り組む上で重要であることも今回の研究で再確認できた。それ以外に、ペアで作業する場の設定（ビルクリーニング班）、作業における生徒の工夫を全体で共有する場の設定（農園芸班）など各作業班の特色を生かした役割設定の工夫も有効であることが分かった。

（２）課題

①　作業時間の確保

個々のめあてやまとめを深めるために個別のやりとりが増え、時間が掛かるという課題が上がった。また始めの会や終わりの会の充実を図ろうとしたときにも同様の課題が見られた。中間評価の充実や生徒個々の自己省察の習慣が養われることで改善の余地があると考える。また、全体での会の内容を各作業班の特色に応じて精選していくなどの検討も併せて行っていきたい。

②　めあての類型化・固定化

作業学習では「丁寧」、「素早く」、「喜んでもらうために」など、めあてが類型化・固定化されてしまいやすいという課題が挙げられた。めあてが形式的にならないようにするために、「技術の習得段階」、「販売会に向けた内容」、「新製品に向けた取組」、「生徒同士の関わりの促進」などテーマを明確にした題材の単元化を一層推進する必要があると考える。

③　個の実態に応じた自己省察の習慣の育成

今回、前原先生に、生徒の社会参加の観点から「どの職場でも自分の力を最大限に発揮しようとする」ために重要な「補完行動」「補完手段」「他者による支援」の３つの視点を御助言いただいた。今後、中間評価等の振り返りを繰り返す中で、生徒がより意欲的に取り組もうとする姿につなげるために、この三つの視点を基に生徒の実態をアセスメントし、指導を見直していきたい。

＜参考文献＞

中央教育審議会答申(2011)：「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
文部科学省(2020)：『特別支援学校学習指導要領解説　知的障害者教科等編(下)(高等部)』、ジアース教育新社

寄宿舎の研究

寄宿舎研究

１　研究テーマ

主体性を育む指導の在り方
～生徒のニーズに応じた生活指導～　（１年次／２年計画）

２　研究テーマ設定理由

寄宿舎では、生徒一人一人が必要な力を身に付け、それを生かすための生活指導を展開してきた。生徒と職員が必要な力を共有し取り組んだことで、技術の定着や意識の高まりにつながり、一人一人が「できた」を実感する経験を蓄積することができた。

今年度の寄宿舎生は、中学部生１名、高等部生１５名の計１６名で、新入舎生は１名である。これまで行ってきた効果的な指導方法を継続しつつ、生徒が将来に向けてどのようなことを頑張り、取り組んでいきたいかを一緒に整理し、卒業するまでになりたい自分の姿に近付くため、自ら考え、主体的に行動する力を育てていきたいと考えた。そのために、生徒一人一人に応じた達成目標を整理し、指導方法の共有や体制づくりに焦点を当て、生活指導の工夫、実践、改善を図っていきたい。

３　研究仮説

生徒のニーズに応じた生活指導を実践し、検証、改善を繰り返すことにより、生徒一人一人の主体性が育まれ、生徒が卒業するまでになりたい自分の姿に近付くであろう。

４　寄宿舎における「主体性」「ニーズ」について

本研究における「主体性」「ニーズ」について職員間で考え、話し合い、次のように捉え進めていく。

「主体性」とは
・生徒自らが、なりたい自分の姿に向かい目標やゴールを設定し、自分の意思で積極的に取り組むこと（結果として見えてくるもの）

「ニーズ」とは
・生徒がなりたい自分の姿（夢や期待、困り感や要求・欲求など生徒が必要とすること）

５　研究の内容と方法

（１）年次計画

１年次 （令和４年度）	・指導の体制づくり ・「目標達成シート」の作成と活用
２年次 （令和５年度）	・グループ検討会の有効活用 ・「目標達成シート」の活用 ・学部・保護者との連携

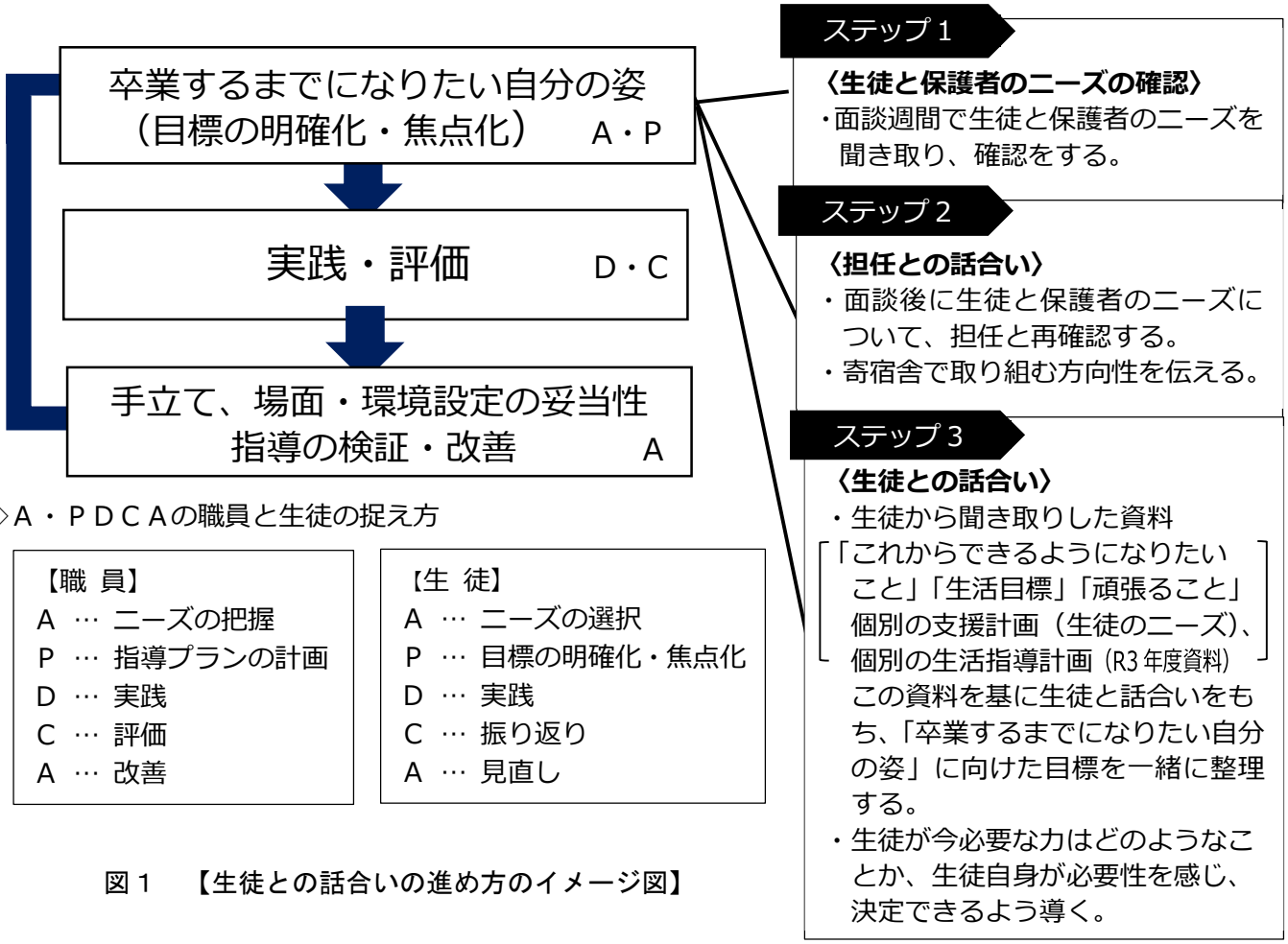
（２）１年次の内容と方法

① **指導の体制づくり**　（図１参照）

・生徒との話合い（ニーズの聞き取り、日々の会話など）
・グループ検討会を活用した話合い（指導の手立てや生徒の実態、指導の共有）
・指導の方向性の共有（職員間・保護者・学級担任と生徒の実態、指導方法・内容）

② **「目標達成シート」の作成と活用**

・「目標達成シート」の試案作成、実践、改善



◇Ａ・ＰＤＣＡの職員と生徒の捉え方

【職　員】
Ａ … ニーズの把握
Ｐ … 指導プランの計画
Ｄ … 実践
Ｃ … 評価
Ａ … 改善

【生　徒】
Ａ … ニーズの選択
Ｐ … 目標の明確化・焦点化
Ｄ … 実践
Ｃ … 振り返り
Ａ … 見直し

図１　【生徒との話合いの進め方のイメージ図】

６　年間計画　（研究計画）

月	日	主な内容	
4	28	寄宿舎研究会①	・今年度の研究について（研究テーマ、方向性の確認）
5	27	寄宿舎研究会②	・研究テーマ、研究内容、方法、年間計画 ・生徒の目標と指導の手立ての共有①（個別の生活目標） ・「目標達成シート」の作成に向けて①
6	24	寄宿舎研究会③	・「目標達成シート」の作成に向けて②（共通理解）
7	26	寄宿舎研究会④	・「目標達成シート」について（グループ協議）*前期反省アンケート
9	2 30	寄宿舎研究会⑤ 寄宿舎研究会⑥	・「目標達成シート」改訂版の提示（目標の具体化・焦点化、指導の手立ての共有） ・「目標達成シート」目標と指導の手立ての共有①（今年チャレンジすること） ・前期反省アンケートより改善策の提示
11	4	寄宿舎研究会⑦	・指導方法の共有について ・「目標達成シート」指導の検証・改善（今年チャレンジすること）

12	2	寄宿舎研究会⑧	・ワークショップ　テーマ:「主体性を育てる効果的な指導・手立て」 ・「目標達成シート」(振り返りについて)　　*年度末反省アンケート
R5・1	10	寄宿舎研究会⑨	・「目標達成シート」目標と指導の手立ての共有② (今年チャレンジすること) ・研究紀要「大輪」について
2	3	寄宿舎研究会⑩	・「目標達成シート」(振り返りとまとめについて)
3	3	寄宿舎研究会⑪	・今年度のまとめ(年度末反省アンケートより) ・次年度に向けて

7　研究の実際

今年度は、生徒が「卒業するまでになりたい自分の姿」をイメージし、その姿に近付くために生徒自身がどのように考え、取り組んでいきたいかについて生徒のニーズを十分に聞き取り、話合いを深めていくことにした。また、生徒からニーズの聞き取りを進めるにあたり、【図１:生徒との話合いの進め方】を基に話合いを行い、生徒が取り組みたいことを焦点化・明確化するために「目標達成シート」を用いることにした。

目標達成に向けての生徒の意欲を高め、生徒自身が主体的に行動していくことにつながる指導方法を共有し、指導の体制づくりを構築したいと考えた。

（１）指導の体制づくりについて

①　生徒との話合い

生徒が「卒業するまでになりたい自分の姿」をどのように考え、その姿に近付くためにどのようなことに取り組みたいのか、一人一人から聞き取りを行った。生徒の気持ちや思いを引き出すために、個々の実態に応じた日記やホワイトボードなどを利用し、生徒が発した言葉を可視化することで「卒業するまでになりたい自分の姿」をイメージしやすいようにした。生徒一人一人とじっくり向き合うことで生徒の細やかな思い、将来の夢、将来の不安を聞き出すことができた。

話合いを進める中で、目標達成に向けたイメージが膨らみ、生徒がやってみたいことを自分の言葉で表現することができた。生徒からは「自分が今、行うべき小さな目標を改めて知ることができた」という言葉もあった。

②　グループ検討会やカテゴリーごとの検討会の活用

職員間で統一した指導方法やつながりのある指導（実態の捉え方、方法、対応）を考え、共有を図り進めていくために、既存のグループ検討会を活用した。またメンバーを替え視点を変えた話合いとなるよう類似した目標やカテゴリーでグループを編成し、指導の振り返りや生徒の変容から効果的な指導の手立てや課題について話し合った。少人数によるグループでの話合いは、意見や考えが出しやすく話合いをより深めることができた。

グループ検討会では、年間を通して同一のメンバーで指導方法を考え、効果的な指導にあたることができた。カテゴリーごとの検討会は男子生徒、女子生徒という性別の枠をなくし広い視点から指導方法を考え、より具体的な指導の手立てが話し合われ、新たな気付きがあった。

※　グループ検討会とは、男子２、女子１の計三つのグループに分かれて、生徒の様々な指導に関すること、情報共有、個別の生活指導計画に関することなどについて、毎月話し合っている会議である。

検討会の様子

③　指導の方向性の共有

ア　保護者・学級担任との共有

生徒との「卒業するまでになりたい自分の姿」に向けた話合いから具体的な取組が決まった時点で、その内容を保護者や学級担任と共有した。指導の経過や変容等については、随時、連絡帳や帰省・帰舎の送迎時や個別面談等で伝えた。

保護者・学級担任・部屋担当で役割分担をして、個々の目標の指導の手立てを共有し進めてきたが、今後変容の読み取りや改善した指導の手立てについて、いつ、誰が、どのようなアプローチをするのかなどを共有し、指導の質を高めていく必要がある。

イ　寄宿舎職員間の共有

指導経過や生徒の変容、指導方法の共有を図る工夫として、日々の指導の記録用紙に指導の手立てを具体的に記載し、生徒一人一人の取組を周知できるようにした（図２）。週ごとに用紙を更新したことで、短いスパンでの変化が見えてきた。記録の蓄積は生徒の変容が分かり、継続指導につながった。

今後は、部屋担当が指導方法を積極的に発信していくことでさらに指導の統一を図り、生徒の小さな変化を読み取ることができるようにしていきたい。

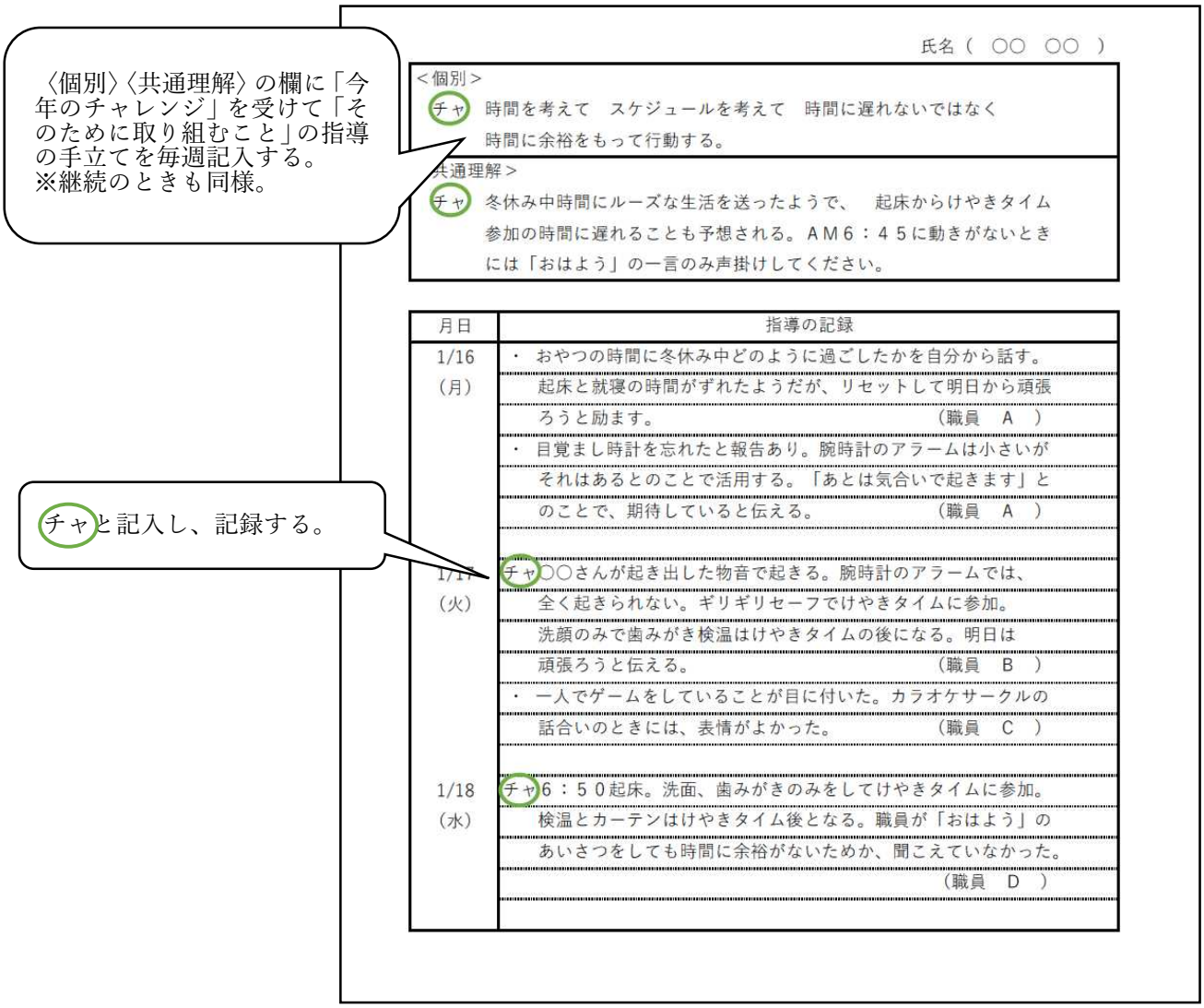


図２　【日々の指導の記録用紙と記入の実際】

（２）「目標達成シート」の作成と活用について

①　「目標達成シート」の作成

研究班が作成した試案を基に、グループ検討会で協議を行い各グループの意見をまとめ、９月から試行した。シートはＡ、Ｂ、Ｃ３枚の形式で構成した。

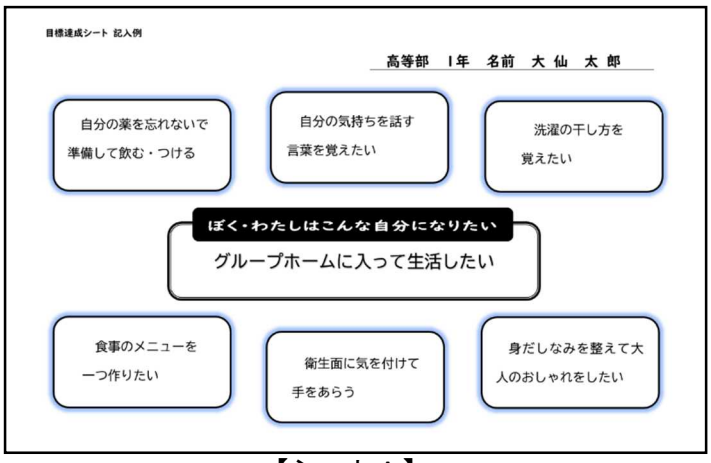
【シート Ａ】「卒業するまでになりたい自分の姿」（学部が変わった時点で作成）

【シート Ｂ】「今年度チャレンジすること・そのために取り組むこと」（年単位で作成）

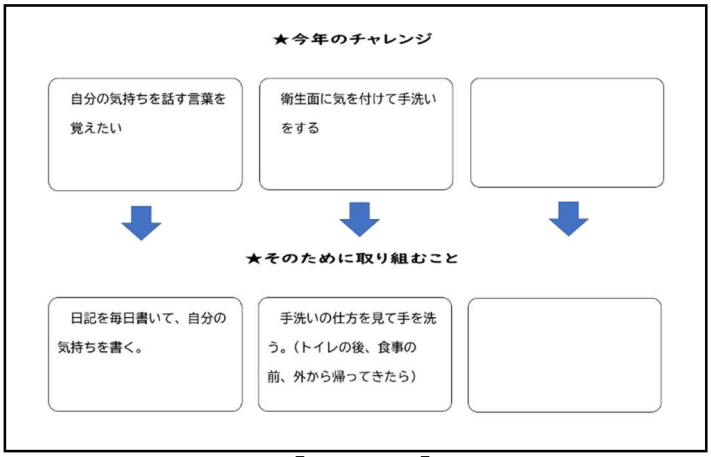
【シート Ｃ】「ふりかえり（９月・２月）」「来年度チャレンジすること」

ニーズを聞き取る際に、生徒の気持ちや思いを可視化して生徒自身が取り組みたいことを整理し、生徒と職員が目標を明確化・焦点化できるようにした。

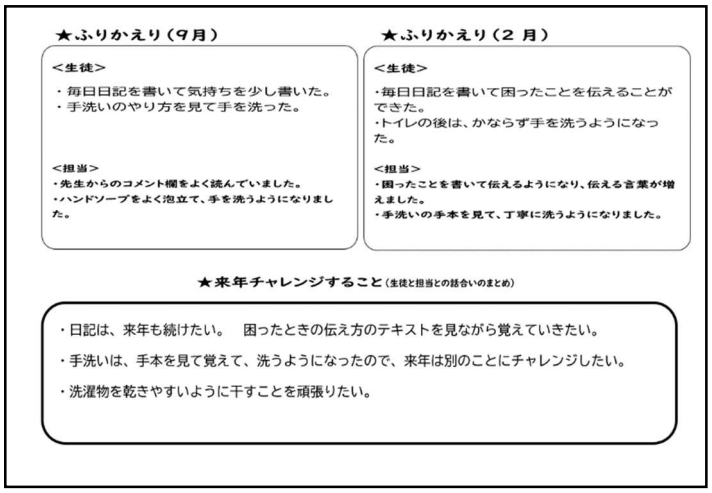
【「目標達成シート」の記入例】



【シートＡ】



【シートＢ】



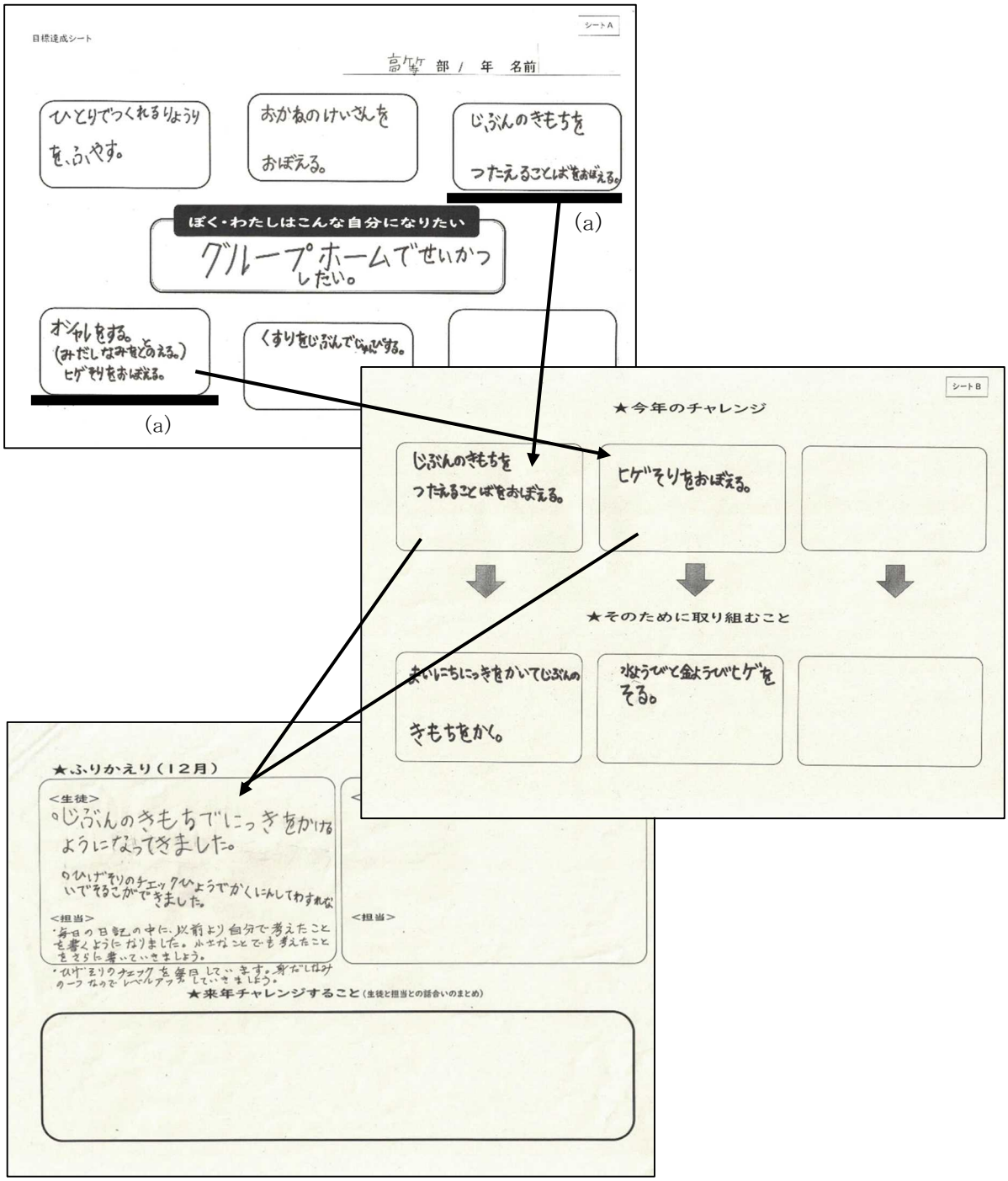
【シートＣ】

②　「目標達成シート」の活用

「目標達成シート」を用いたことで、生徒一人一人が目標を達成するために生活場面で具体的に何に取り組むのか、そのために日々どのようにしていくのかを一緒に考えることができた。生徒が自分で考え、自分で記入したことにより、やってみよう、頑張ってみよう、続けてみようという気持ちが育ち、主体性が見られるようになってきている（ａ）。その反面、少数ではあったがやらされているという気持ちになる生徒がいた。一緒に考える際には、生徒のスケジュールを考慮した時間や場所の確保など、生徒の気持ちを受け入れながら改善し、進めることも必要であった。

今後、生徒の意欲をさらに育てるために、「目標達成シート」を生徒の目に付くところに掲示をするなど、普段から目標を意識できる工夫をしていく。

【実際に活用した例　高等部１年　男子生徒Ａ】



８　成果と課題

（１）　成果

①　指導の共有

・グループ検討会で、一人一人についてより深く話し合うことで、生徒の実態、課題、評価を整理することができた。また、そのことで生徒の次に目指す方向や、指導の手立てが明確になった。

・グループ検討会で整理し合った方法をまとめ、研究会で指導の方向性を明確にしたことで、生徒全員の指導のポイントを職員間で共有することができた。生徒への言葉掛けのタイミングや内容、称賛や励ましなどの指導を共有し、進めることで、生徒のモチベーションの向上につなげることができた。

②　「目標達成シート」の有効活用

・生徒が目標を掲げることは、自己理解と自己肯定を受けて自分を見つめ直す機会になった。

・「卒業するまでになりたい自分の姿」の大きな目標を達成するために、現時点で行う小さな目標を設定したことで、生徒自らが身に付けたい力を具体的に導き出すことができ、主体的に生活することへの一歩につながった。

・職員は、生徒と話合いを繰り返し、いくつかの目標を設定したことで、個々の表面化していない力を見付け出し、指導の手立てにつなげることができた。

・「目標達成シート」の内容を生徒が考えたことで、職員が多方面からのアプローチの方法を模索し、指導の手立ての広がりに気付き、その後の指導実践に生かすことができた。

（２）　課題

①　視点の明確化

何をもって生徒の主体性が育ったのかを判断するために、記録の視点を明確にする必要がある。

②　振り返りの充実

生徒と一緒に振り返りをする中で「どこまでできたか」を評価し、「どうすればもっとよくなるか」について考えていく必要がある。「できた」を実感することで意欲につなげていきたいと考える。また、振り返りから指導の手立てや指導方法を検証し、生徒自らが目標達成に向けて積極的に取り組む姿を導き出していきたい。

研究のあゆみ（平成４年度～令和４年度）

年度	研　究　主　題	研究指定（国・県）	公開研究会
平４	教育課程の理解を深めながら 豊かな指導に当たるために		
平５		心身障害児交流活動 地域推進研究校（国）	自主公開研究会
平６	地域に根ざした交流活動を求めて		公開研究会
平７	伸び伸びと取り組み， たくましく生きる子どもの姿を求めて		県特殊教育研究大会
平８	児童生徒一人一人の実態に応じた 適切な指導の在り方		
平９			
平10	集団の中で個に応じた指導を行うために ～より実践しやすい指導方法を求めて～		
平11			県南三校合同授業研究会
平12		マルチメディア活用 学校間連携推進事業 （国・県）	県南三校合同授業研究会
平13	一人一人の課題に応じた 授業づくりを求めて		
平14	知的障害養護学校における マルチメディアの実践活用 ～児童生徒の実態に応じた 活用の在り方について～		
平15			
平16	一人一人のニーズに応じた 総合的な支援体制の構築に向けて ～個別の教育支援計画の策定と 他機関との連携の在り方を探る～	特殊教育実践研協力校 （県） 特総研研究パートナー	委嘱研究中間報告会
平17			委嘱研究最終報告会
平18	一人一人の力を伸ばす授業づくり ～授業改善の取組を通して～		自主公開研究協議会
平19			自主公開研究協議会
平20	一人一人が主体的に活動する姿を 目指した支援の探求		自主公開研究協議会
平21			自主公開研究協議会
平22	「児童生徒が関わりから学ぶ」授業づくり		自主公開研究協議会
平23			自主公開研究協議会
平24	「つくる活動」の授業づくり ～児童生徒の主体的取組を目指した 指導内容・方法の工夫改善～		公開研究会
平25			公開研究会
平26	「つくる活動」の授業づくり ～児童生徒が気付き，考え， 判断する姿を目指して～		公開研究会
平27			公開研究会
平28	児童生徒が「気付き，考え，判断する」 授業づくり		公開研究会
平29	「分かる，できる，振り返る」授業づくり	特別支援教育に関する 実践研究充実事業（国）	公開研究会
平30	「分かる，できる，振り返る」授業づくり ～学びがつながる　人とつながる～		公開研究会
令元	「考える」を発揮する授業づくり		
令２	考え，表現する力を発揮する授業づくり		公開研究会
令３	見える化で「分かった」「できた」 「もっと知りたい」が高まる授業づくり		
令４	意欲的に自分の役割に取り組む力を 育てる授業づくり ～めあてにつながる振り返りに 焦点を当てて～（１年次／２年計画）		

お　わ　り　に

今年度は、第三次総合整備計画の最終年であり、各校で掲げた教育プランもまとめの年となりました。本校でも、これまでの５年間を振り返り、学習の成果と課題について各学部・分掌で意見を出し合い、次の５年間に向けての展望について話合いを続けています。

さて、本年度の研究では、「意欲的に自分の役割に取り組む力を育てる授業づくり～めあてにつながる振り返りに焦点を当てて～」という主題のもと、２年計画の１年目は、合わせた指導を中核とした授業づくりを積み重ねて参りました。研究を進めるに当たり、「自分の役割」の捉えについては、各学部段階、作業班、本時の授業の中でなどの共通理解を行いました。昨年度の研究「見える化」を活用し、「振り返り」や振り返りから見えてきた気付きや課題を次時のめあてにつなげるＰＤＣＡサイクルを意識した取組ができました。一方で、振り返りに掛ける時間配分や、振り返りの在り方を一律にするのではなく授業によっての振り返りやまとめのバリエーションを増やしていくこと等についてはまだ課題があります。同時に、意欲的に自分の役割に取り組む力をさらに高めるには、児童生徒が個の目標をより一層意識できるように、評価規準や評価基準を設定するなど、次年度に向けて各学部で十分に検討し、改善していきたいと考えております。

寄宿舎では、「主体性を育む指導の在り方～生徒のニーズに応じた生活指導～」を研究テーマとし、目標達成シートを活用して生徒が主体的に行動していくことにつながる指導方法の共有と指導体制の構築に取り組みました。

また、授業づくりのアンケートを実施し、職員が日頃難しいと考えている課題を絞り、その課題に沿った内容の研修会を教育課程三部会と連携して示範授業と併せて実施しました。日々の授業改善協議（日々研）も研究主題に沿って実施され、授業参観週間を年２回実施し、概ね好評でした。

研究実践の一つ一つが、教育課程の工夫・改善につながる取組であることを全職員で再確認をし、特色ある教育活動の実践に向けて全職員が一丸となって組織的・計画的に取り組んでいけるように努力したいと思います。

今年度の成果と課題の詳細は、本冊子に掲載されています。私たちの取組についてお読みになっていただき、存分に御意見をお聞かせ願えたらと思います。課題については真摯に受け止め、来年度の公開研究会に向けて、生かして参りたいと思います。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり全校授業研究会、並びに学部授業研究会で指導助言者として、御指導や御助言いただいた先生方に心より感謝申し上げ、結びといたします。

教頭　　大沢　貴子

研　究　同　人

校　長	鎌田　誠
教　頭	大沢貴子
	浅沼和子
事務長	俵谷　浩
教諭兼教育専門監	本多由香
研究主任	藤田智子

小学部	中学部	高等部	寄宿舎
加藤有美子	佐藤茂樹	北林拓也	富樫裕子
熊谷康子	宮本ゆかり	佐々木美由紀	佐々木美和子
小林朋子	今野洋美	松井克彦	櫻田教子
照井真理子	阿部広子	佐藤孝成	菅野倫子
臼井道和	新保谷芽	髙田あづさ	小玉亜紀
深谷ゆき	赤川由美	塚田瑞恵	佐藤礼子
石戸谷潤子	斎藤健	泉純子	新山和征
佐々木龍雄	関美鶴恵	谷藤弘美	高橋由美
須田孝子	岩井宏樹	遠山成子	加賀谷信子
時田淳子	小松良平	佐藤幸徳	松川倫子
丹波舞子	髙田聡美	渡會義信	五十嵐みゆき
佐々木貴子	髙橋由布子	目黒恭子	佐藤仁志
柿﨑貴之	永澤淳子	加藤豊	佐々木栄大
柴田怜子	渡邊和典	木母祐子	太田里香
藤澤祐美子	阿部凌一	岩田隆彦	佐藤英喜
石井美里	伊藤歩佳	阿部哲哉	石川久
鈴木やよい	深川靖子	髙橋悠	大友るみ子
藤谷陽子	石井暢子	鈴木佑理	富樫千恵美
沓澤愛純		髙橋典子	
久保市昌子		髙橋里美	
大西幸		佐藤雄大	
佐々木一穂		佐藤美空	
藤原文子		山元将崇	
田口瑞枝		三浦杏太	
加藤葉子		小助川明	
		渋谷康之	
		千葉仁	
		草彌昇	

瞳かがやき、笑顔あふれる学校